

第3編 学 校 別 研 究

【 目 次 】

沼 田 小 学 校	4 6
沼 田 東 小 学 校	5 0
沼 田 北 小 学 校	5 4
升 形 小 学 校	5 8
利 南 東 小 学 校	6 2
池 田 小 学 校	6 6
薄 根 小 学 校	7 0
川 田 小 学 校	7 4
白 沢 小 学 校	7 8
利 根 小 学 校	8 2
多 那 小 学 校	8 6
沼 田 中 学 校	9 0
沼 田 南 中 学 校	9 4
沼 田 西 中 学 校	9 8
沼 田 東 中 学 校	1 0 2
池 田 中 学 校	1 0 6
薄 根 中 学 校	1 1 0
白 沢 中 学 校	1 1 4
利 根 中 学 校	1 1 8
多 那 中 学 校	1 2 2
利 南 幼 稚 園	1 2 6
薄 根 幼 稚 園	1 3 0

沼田小学校

所在地 〒378-0042 沼田市西倉内町746番地
 電話番号 0278-22-2063 FAX 22-0780
 校長名 永島 芳信

I 学校の経営

1 学校の教育目標・経営方針

「知」よく学ぶ子 【深く考える子】

習得した知識・技能を活用しながら、課題に対して深く考える力を育成する。

「徳」助け合う子 【温かく接する子】

自他に温かい言葉をかけ、さまざまなことに積極的に挑戦させることをとおして達成感や満足感を味わわせ、児童の自己肯定感を醸成する。

「体」元気な子 【強い体をつくる子】

体力の向上、生活習慣の定着を図り、健康・安全に留意しながら生活する態度を育成する。

2 スローガン

「温かい言葉・明るい行動で 一步前へ！」(児童)

「自己肯定感の醸成 『共有する』『任せる』『認める』」(教職員)

3 本年度の重点施策

「非認知能力」の育成に向けて、その基盤である「自己肯定感」を醸成していけるよう、「共有する」「任せる」「認める」活動の充実を図る。

○共有する：活動の最上位目標を全教職員で共有する。児童・保護者・地域とも共有する。

・単元・単位時間のねらいを明確化・具体化・焦点化し、クエスチョン型でたてる。

・各行事のねらいを端的(15.5文字程度)に示す。

・コミュニティ・スクールの機能を生かして、目指す児童像を地域と共有する。

○任せる：児童主体の活動を充実させる。

・授業において「魅力的な問い」を設定し、児童が主体的に追究できるように支援する。

「めざせ30分！」(児童に30分任せる)

・各行事のねらいの達成に向けて、「何ができるか」を考えられるように支援する。

○認める：3つの視点(「自分を高める力」「自分と向き合う力」「他者につながる力」)を見取る。

・「ゴール」だけでなく、3つの視点から「プロセス」を認める。

・キャリア教育における「自己理解・自己管理能力」との関連を図り、自己の取組を3つの視点から振り返られるように支援する。

「認める」活動において、以下の姿を積極的に見取っていく。また、そうした姿が表れるような目的やめあてをたて、児童と「共有する」。

	自分を高める	自分と向き合う	他者につながる
確かな 学力	「問い」をもち粘り強く考えている。	活動を振り返り、苦手なところや改善できるところを見つけ、よりよくしようとしている。	わからないことを聞き、いろいろな考えがあることを知ったり、考えのよさに気付いたりしている。
豊かな 心	どのような行動をすればよいかを考えて活動している。	自分のよさ・強みに気付いている。 (ありのままの自分が好き)	素直に「ありがとう」「ごめんね」「いいね」を伝えている。
健康 体力	「やってみたい！」に粘り強くチャレンジしている。	生活習慣を見直している。	協力しないと達成できないことに挑戦している。

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～
主題 主体的に取り組む子の育成
副主題 ～思考がスタートする「魅力的な問い」の設定を通して～

児童の実態との関わり

・昨年度までの研修により、他者と考えを共有したり、比較したりしながら考えることができる児童が増えてきている。しかし、他者の考えに触れて、自分の考えを深めることはまだ十分ではない。他者から学んだり、それをもとに学びを調整したりする力の育成が必要である。

指導の在り方との関わり

・児童が考える時間を確保し、一人一人が意見をもてるように支援してきた。しかし、児童の自ら考える場面が限定されていたり、考え方を教師が示したりすることが多かった。
・「自律した学習者」の育成に向けて、児童が主体的に学べる授業に質的転換を図る必要がある。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す児童像

【低学年】 問いの解決に向け、自分の考えをもち取り組む児童

【中学年】 問いの解決に向け、自分なりの学習方法を考え取り組む児童

【高学年】 問いの解決に向け、よりよい学習方法を選択し取り組む児童

【特別支援】 問いの解決に向け、個に応じた提案の中から自己決定して取り組む児童

(2) 共通実践する手立て

「魅力的な問い」の設定により、児童が主体的に課題を追究できるようにする。

・「魅力的な問い」とは・・・クエスチョン型の問い。

児童が解決の見通しをもったり、解決の方法を決めたりできる問い。
深い学びへと結びつく問い。

3 研修計画・経過報告

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・「魅力的な問い」の設定により、児童が主体的に叙述を根拠に語り合う姿が見られた。
- ・「任せる」時間を設けたことで、児童が主体的に学習方法を選び、めあての達成に向かう姿が見られた。

○課題

- ・全体共有の際に、全ての児童が考えを深めていけるようにすることが難しい。
- ・「任せる」時間と一斉指導の時間の割合を探る必要がある。
- ・単元によっては、「魅力的な問い」を設けることが難しいものもある。
- ・教師主導による問いの設定の際には、発問を精選しておく必要がある。
- ・児童の問いを大事にしたいが、より質の高い問いへ気づかせていくことが難しい。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・より「魅力的な問い」を設定できるように、日々の教材研究を行うとともに児童の実態を把握していく。
- ・実践後の成果を共有し、次年度以降へつなげていく。

3 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点 (上段)・明らかになったこと (下段)]
4.3	【推進委員会①】	○主題、副主題、研修組織、研修計画、目指す児童像の検討・確認
4.10	【全体会①②】	・研修テーマの共通理解
4.11	・研修計画の検討	○資質向上のための教材研究のやり方確認
4.18	【推進委員会②】	・目指す児童像の共通理解
5.7	【全体会③】 ・研修計画の修正、確認	○研修計画の確認 ○研究の内容や方法等の検討、指導案形式の確認
5.20	授指導主事訪問A	○校内研修の方向性を確認、改善 ・児童の思考が動き出す「魅力的な問い」とはどのような問いか具体的なイメージを全体で確認していく必要がある。 ・質の高い問いへつなげていくために段階に応じてどのように手立てが必要か共通確認していくことが大事である。 ・実践後有効なものは学校の財産として残す方法も考えていく。 ・「任せる」時間と指導の時間の割合を探る必要がある。
5.27	【全体会④】 ・資質向上研修	○研修への指導助言等共通理解 ・A 訪問で国語で実践した教諭から授業内容また、指導内容を確認し、個々の実践で生かせるようにした。 ・問いの提示の仕方の確認。児童の問いも大事にししながら、現段階では、教師主導で問いを提示していく。 ○B 訪問授業者検討
6.12	6年2組 理科 「植物のからだのはたらき」 授町田教諭	○「魅力的な問い」の設定の成果、課題、改善点を明らかにする ・児童のつぶやきの中に、無意識に既習事項と結びつけている発言があり、それらのキーワードをもとに単元の課題を作り上げていた。 ・児童主体で「魅力的な問い」を作る方法と班での話し合いが全体での話し合いで生きるにはどうしたらよいのか研修していくことが必要。
6.17	【全体会⑤】	○先行授業により方向性と授業検討会のもち方の確認 ・ロイロノートを活用し、主体的な姿と課題、疑問点を明らかにしていき、次の実践へとつながるようにした。
6.24	【全体会⑥】	○教材研究のやり方を確認するために、同一教材による「魅力的な問い」を検討する
8.30	【推進委員会③】	○研修計画の再確認
9.2	【全体会⑦】	○研修の成果と課題を振り返り、今後の方向性を確認する
9.6	1年1組 国語 「やくそく」 授見城教諭	○「魅力的な問い」の設定の成果、課題、改善点を明らかにする ・登場人物の行動を想像しながら読むための手立てとして、現時点の児童の実態を踏まえた会話シールや吹き出しを書く活動は有効。 ・学習課題を児童が自分事として捉えられるように、課題設定までの授業の流れを考えていく。
9.9	5年1組 国語 「詩を味わおう」 授倉澤教諭	○「魅力的な問い」の設定の成果、課題、改善点を明らかにする ・各グループで立てた問いを解決しようとする姿が見られた。他のグループの問いを掲示しておくことでさらに読み取りが広がる。 ・まとめと振り返りを他教科においても共通実践していく。
9.10	1年2組 国語 「やくそく」 授萩原瑠奈教諭	○「魅力的な問い」の設定の成果、課題、改善点を明らかにする ・学習課題を自分事として捉えられるように発問の仕方を工夫したこと、また登場人物になりきるために絵を描いたことが有効。 ・1年生にどこまで「任せる」ことができるのか見極めていく。
9.12	6年2組 体育 「器械運動 マット運動」 授原教諭	○「魅力的な問い」の設定の成果、課題、改善点を明らかにする ・「任せる」時間が多くあったことで、様々な学習方法を児童自身が選択して進める姿が見られた。 ・個々のめあて達成のために教師の意図的なグループ分けも必要。
9.27	4年1組 国語 「ごんぎつね」 授後藤教諭	○「魅力的な問い」の設定の成果、課題、改善点を明らかにする ・単元を貫く学習課題が、各場面ごとの読み取りにも意識されるような問いになり、児童が主体的に叙述を根拠に語り合う姿が見られた。 ・全体共有の際に、全ての児童が考えを深めていけるようにすることが難しい。
9.30	【全体会⑧】 指	○B 訪問指導案検討会①
10.1	4年2組 国語 「ごんぎつね」 授川端教諭	○「魅力的な問い」の設定の成果、課題、改善点を明らかにする ・単元を貫く学習課題により、児童の考えの変容が明確になった。 ・全体で注目したい叙述や読み取り方などの指導項目を児童主体で行うことが難しい。

10.16	5年1組 社会 「日本の水産業がかかえる課題」 授 細谷教諭	○「魅力的な問い」の設定の成果、課題、改善点を明らかにする ・「問い」に対し、児童自身が作った資料を元にプレゼンを行う授業スタイルが定着しており、深い学びにつながっていた。 ・児童から出た言葉を問い返したり振り返りで自分の言葉でまとめたりすることで児童が自主的に授業を進めていた。
10.23	2年1組 国語 「お手紙」 授 萩原一貴教諭	○「魅力的な問い」の設定の成果、課題、改善点を明らかにする ・「なぜ？」と問いかけたり交流活動を取り入れたりすることで発言が活発になった。 ・より深い学びにつなげるためには、場面設定の明確化が重要である。
10.24	2年2組 国語 「お手紙」 授 七五三木教諭	○「魅力的な問い」の設定の成果、課題、改善点を明らかにする ・一人一人の学びを個別に見取ることで、全体交流に生かした。 ・「どのように読んだらよいか」を追究したことで、児童が叙述を根拠にしながらか主体的に学ぶ姿が見られた。
10.24	4年1組 音楽 「せんりつの重なりを感じ取ろう」 授 佐々木教諭	○「魅力的な問い」の設定の成果、課題、改善点を明らかにする ・二人組の練習を通して、主体的に練習する姿が見られた。 ・子どもがもっと楽譜に目を向け、楽譜を根拠とした音楽活動になるように、子どもたちへの投げかけや問い返しを改善していく。
10.29	【全体会⑨】指	○B 訪問指導案検討会②
11.1	6年1組 国語 「詩を味わおう」 授 森下教諭	○「魅力的な問い」の設定の成果、課題、改善点を明らかにする ・理由について繰り返し意見交流した際に叙述を根拠にできていた。 ・個別交流では、支援が必要な児童を見極めて声をかけることが必要。
11.8	【全体会⑩】 6年2組 国語 「詩を味わおう」 授 高坂教諭	○指導主事訪問B ○成果、課題、改善点を明らかにし、今後の研修の方向性を確認する ・交流の途中で振り返り、じっくり自分で作品と向き合う時間も有効。 ・自分たちで考えを深められるように目的意識をもたせることが難しい。
11.18	【全体会⑪】 ・研修の確認・修正	○これまでの校内研修の成果・課題を明らかにし、これからの研修の方向性を確認する
11.26	3年1組 国語 「三年とうげ」 授 戸部教諭	○「魅力的な問い」の設定の成果、課題、改善点を明らかにする ・問いに対する自分なりの意見をもってから交流を設けた方が有効。 ・単元を貫く問いから本時の問いにつなげることが難しい。
11.27	3年2組 国語 「三年とうげ」 授 大島教諭	○「魅力的な問い」の設定の成果、課題、改善点を明らかにする ・学習内容が教材文の内容や単元の指導事項、「問いの質」に左右される。 ・より魅力的な問いを生み出すためには、実践を積み重ねることが必要。
1.27	【全体会⑫】・研修のまとめ	○成果と課題の検討、来年度の方向性の確認
3.10	【全体会⑬】・来年度の研修計画	○来年度の計画の検討

※資質向上研修

	区 分	講 師	内 容
4.10	保健に関する研修	養護教諭 松井 純子	・食物アレルギー対応、エピペンの使い方
5.7	特別支援教育に関する研修	スクールカウンセラー 原澤 幾子	・保護者対応について
プール指導前	緊急時の対応についての研修	体育主任 原 将吾 養護教諭 松井 純子	・心肺蘇生法 ・AEDの使い方
随時	特別支援教育に関する研修	教諭 佐藤紀子・佐藤真理	・特別支援教育のミニ講話

< 職 員 一 覧 >

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
校長	永島 芳信	教諭	萩原 一貴	養護教諭	松井 純子
教頭	反町 真由美	〃	高坂 拓歩	事務職員	石山 朝香
教諭	佐藤 紀子	〃	原 将吾	用務員	樋口 元二
〃	見城 由香	〃	七五三木 雪乃	生活相談員	小林 昌子
〃	佐藤 真理	〃	萩原 瑠奈	学校教育支援員	黒沢 伸江
〃	佐々木 典子	〃	川端 真倫	〃	金子 弘
〃	倉澤 泰子	〃	大島 由依	〃	佐藤 紗希
〃	戸部 亜由美	〃	倉品 健	スクールサポートスタッフ	今井 美重
〃	町田 友香	〃	楠渕 悠	〃	斎藤 理恵
〃	森下 由佳	〃	狩野 晃颯	ALT	グレゴリー・パウワー
〃	後藤 千穂	〃	片野 日佳梨	初任研後補充非常勤講師	石田 直行
〃	小熊 一洋	〃	細谷 龍男	スクールカウンセラー	原澤 幾子

沼田東小学校

所在地 〒378-0053 沼田市東原新町1801-1
電話番号 0278-23-1118 FAX 22-0781
校長名 内藤 麗子

I 学校の経営

1 学校の教育目標

- (1) **基本目標** 心豊かで、進んで学び、生きる力みなぎる沼東小っ子の育成
(2) **具体目標** ひ：人の気持ちを感じ取り、思いやりのある行動をする子
が：学力向上に向け、よく聴き、考え、自分の言葉で伝え合う子
し：心身ともに健康で、ねばり強くがんばる子

2 経営方針

(1) 学校経営目標

◎安心・安全な学校環境の中で全教職員が協働的・創造的に教育活動に取り組み、「心豊かで、進んで学び、生きる力みなぎる沼東小っ子の育成」の具現化を図る。

(2) 目指す学校像 ～元気に登校、笑顔で下校～

- ・温かな人間関係と、活気と秩序のある学校生活に必要な規律を形成する学校
- ・確かな学力の育成に向けて、授業改善を積み重ねる学校
- ・安心・安全な学校環境と、児童の心身の健康を守り抜く学校
- ・教職員が同僚性を発揮し合い、心身の健康を保持して働く学校
- ・家庭や地域と連携・協働して、児童の成長を支える学校

3 本年度の重点施策

(1) 学校経営の充実

- ・「報告・連絡・相談・記録」を徹底して教職員のチーム力を高めるとともに、各分掌主任に「任せる」ことを通して、教職員一人一人の持ち味を生かした組織づくりを進める。
- ・時間を意識した働き方と勤務規律の確保について教職員の共通認識を深め、よりよい教育を行う。

(2) 豊かな心の育成

- ・人権教育と道徳教育を主軸として自分の大切さと他の人の大切さを認める心を育むとともに、誰もが安心して学校生活を送るために必要な支持的風土を醸成する。【命を守り育てる教育】
- ・生徒指導4つの視点を教職員で共有するとともに、諸課題の未然防止や再発防止に向けて、発達支持的生徒指導や課題予防的生徒指導を意図的・計画的に行う。
- ・生活五原則(挨拶・返事・整理整頓・無言清掃・時間を守る)を示し、きまりの理由を児童が自分事として考えることを通して、主体的に遵守できるようにする。

(3) 確かな学力の育成

- ・教科指導と生徒指導を一体化した授業づくりに努め、児童が学ぶ楽しさや達成感を味わいながら、ねらいに応じた資質・能力を身に付けられるようにする。【わくわくスクール沼田】
- ・問題解決的な学習及び探究的な学習を重視するとともに、自己決定、対話・交流、試行錯誤などの場面を取り入れた児童主体の授業を展開し、認知能力と非認知能力を一体的に育む。
- ・授業と家庭学習を連動させた指導、おもしろ算数教室や漢字・算数コンテストの計画的な実施を通して望ましい学習習慣と基礎・基本の定着を図る。

(4) 健やかな体の育成

- ・教科体育の授業において身体活動量を確保するとともに、体育的行事に児童一人一人が目標をもって取り組むこと通して、運動技能の向上と運動習慣の定着を図る。
- ・家庭と連携した健康的な生活習慣の定着に向けて、学校保健委員会を機能させるとともに、ノーメディアチャレンジ等の啓発活動を計画的に行う。【沼田市 SNS ルール】

(6) 特別支援教育の充実

- ・個別の指導計画に基づき、個々の教育的ニーズに応じた支援を学校全体で共通実践する。
- ・沼田特別支援学校との交流を通して、人々の多様な在り方に対する理解を深め、互いに協力し合おうとする実践的態度を育てる。

(7) 地域とともにある学校づくり

- ・地域の教育資源を探究的に学ぶ学習を推進し、ふるさとへの愛着を深める。【ぬまた未来創造学】
- ・コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進し、互惠性のある取組とする。

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主題 自他を尊重し、学び合い高め合える児童の育成

副主題 ～気づきや発見を自分の言葉で説明できる協働的な学びの充実を通して～

児童の実態との関わり

- ・ICTを活用して交流することには慣れてきた。
- ・自分の考えを発言する際、説明が不十分であったり、限られた児童の発言になったりすることに課題がある。
- ・考えを発表することに満足してしまう児童が多く、考えを広げたり、深めたりする質問や発言ができる児童が少ない。新たな考えを見出し、他者を認め、協働して課題を解決し、めあての達成に向かうことに課題がある。

指導の在り方との関わり

- ・多様な考えをもち、他者と交流して、自らの考えを深めたり、新たな考えを創造したりできる手立てを工夫していく必要がある。
- ・友達と考えを伝え合う際に、交流の視点を明確にし、互いの考えのよさに気づき、考えが深められるようにしていく必要がある。
- ・話し合い活動で、全体交流した後、再考する場を設定し、学びを深められるようにしていく必要がある。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す子ども像

自分の考えをもち、友達との交流を通して、お互いに理解し合い、認め合いながら自分の考えを深めることができる児童

(低学年) 自分の考えをもち、友達に伝え、友達の考えのよさを分かろうとする児童

(中学年) 自分の考えを説明し、友達の考えと比較して自分の考えを広げようとする児童

(高学年) 根拠をもって自分の言葉で説明し、友達の考えと比較したり関連付けたりしながら、考えを深めようとする児童

(2) 共通実践する手立て

- ・「東小スタンダード」として「話し方・聴き方名人」「つながるハンドサイン」を作成し、それらを活用して児童が自信をもって自分の考えを発信したり、伝え合ったりして思考が深まる対話的活動の充実を図る。
- ・自分の考えをしっかりとらせる個人追究の充実を図り、目的意識のある対話的活動を行う。
- ・児童が思考を深めるための教師の発問や問い返しなど、関わりや手立てを工夫して授業実践を行う。

3 研修計画・経過報告

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・「話し方・聴き方名人」「つながるハンドサイン」を活用することで、対話的活動において、安心して自信をもって発信できる児童の姿が見られた。
- ・交流の視点を明確に示したり、問いかけや問い返しを精選したりすることを通して、児童が互いのよさに気付いたり考えを深めたりすることができるようになった。

○課題

- ・協働的な学びから児童がさらに考えを広げたり深めたりできる、ねらいに迫るための手立てを工夫していく必要がある。
- ・児童同士でよりよい考えを練り上げられるように、個々の児童が自分の考えをしっかりと表現できるようにしていく必要がある。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・ねらいを達成するために、効果的で子どもが解きたくなるような発問の工夫をしたり、対話的活動の後に児童が思考錯誤したり、自己決定したりする場面を設定する。
- ・さらに協働的な学びを充実させるために、自力解決の充実を図る。

3 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討

授 は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点 (上段)・明らかになったこと (下段)]
4. 22	全体会① ・研修内容の共通理解	○主題、副主題、研修内容・方法の検討、目指す児童像の検討 ○東小学校スタンダード作成、「話し方・聴き方名人」の確認
5. 13	全体会② ・一人一授業の計画確認 ・研修計画の共通理解	○一人一授業についての計画・確認 ○授業の視点について確認 ○地区別人権授業公開教科検討
5. 22	授 指導主事要請訪問A	○研修の方向性の指導・助言を受けた。
6. 10	全体会③ ・メンタルヘルス研修	○職場環境作りとメンタルヘルスについて講演を聞き、意見交流を行った。
6. 12	授 ことばの教室 小川教諭 言語指導「サ行の定着」	○1対1の指導においてタブレットの映像機能を活用した授業 ・タブレットの映像機能を活用して比較したことが、学習への主体性を高める上で有効であった。
7. 1	授 6年理科 戸部教諭 「生きものどうしの かかわり」	○グループで話し合い、実験に向けての見通しをもたせた授業 ・比較する視点を教師が明示し話し合ったことが、発表する児童も聴く児童も考えを比較しながら自分の考えをもたせる上で有効であった。
7. 3	授 3年算数 外山教諭 「棒グラフ」	○グラフの特徴を話し合い、データを分析・整理しグラフに表した授業 ・話合う視点を明確にしてペアで話し合ったことが、グラフを作成する上で有効であった。
7. 4	授 5年国語 見城教諭 「日常を十七音で」	○対話的な活動を通して、推敲を重ねて俳句をつくりあげた授業 ・話し合いの視点を明確にしたこと、児童の発言をつなぐ教師の役割が的確であったことが、児童同士の対話を活発に行う上で有効であった。
7. 9	授 ひまわり2組 片野教諭 自立活動「日常生活トレーニング」	○頭と体の洗い方を写真や動画を見て、気付いたことを話し合い、確認・実践を行った授業 ・考えさせたい写真や動画を精選し、気付いたことを発言・交流する活動を行い、教師の関わりを工夫したことが、ねらいに迫る上で有効であった。
7. 16	授 ひまわり1組算数 小田橋教諭 「わなげであそぼう」	○友達と交流しながら、正しく得点数を導き出した授業 ・解決に向けて交流する場面を設定したことが、児童が飽きずにねらいに迫る上で有効であった。
7. 19	全体会④ ・特別支援研修	○特別支援学校の後藤先生を講師に迎え、特別支援についての講演会を行った。
8. 27	臨時全体会 ・アンケート結果共有	○「話すこと・聴くこと」アンケート結果分析と今後の指導の方向性についてブロック別検討し全体共有を行った。
9. 2	全体会⑤ 指 地区別人権指導案検討	○「人権意識」アンケート結果分析と今後の指導の方向性についてブロック別検討し全体共有を行った。 ○地区別人権で実施する授業構想を確認し、本時の展開の指導をブロック別に検討を行った。
9. 11	授 2年算数 吉本教諭 「三角形と四角形」	○ペアで話し合い、三角形と四角形の仲間分けをした授業 ・話し合いの視点を明確にし、ペアによる対話を入れたことが、問題解決する上で有効であった。
10. 7	全体会⑥ 指 地区別人権指導案検討	○地区別人権で実施する授業構想を確認し、本時の展開の指導をブロック別に検討を行った。
10. 11	授 ひまわり3組算数 小野里教諭 「丸い形を調べよう」	○対話しながら折れ線と直線の長さを比べる方法を考えた授業 ・「つながるハンドサイン」を活用して話し合いながら考えたことが、全員で解決に向かうことができたので有効であった。
10. 16	全体会⑦ 指 地区別人権指導案検討	○地区別人権で実施する授業構想を確認し、本時の展開の指導をブロック別に検討を行った。
11. 11	全体会⑧ 指 地区別人権指導案検討	○地区別人権で実施する授業構想を全体で確認し、本時の展開の指導をブロック別に検討を行った。
11. 19	授 4年体育 加藤教諭 「マット運動」	○対話を通して回転技を習得した授業 ・グループで動画を見返しアドバイスしあったことが、自分では

		気付かないことに気付いたり、技の向上に向けて試したりする上で有効であった。
11.21	授 1年算数 土井教諭 「くりさがりのひきざん」	○グループ、全体で話し合い、より良い解決方法を考えた授業 ・話し合いの視点を明確にしたことが、話し合いの内容がぶれずに児童同士が考えをつないで思考を深める上で有効であった。
11.22	授 5年算数 阿達教諭 「図形の面積」	○面積の求め方をグループで話し合い、解決方法を考えた授業 ・見通しをもたせ、多様な考えを引き出し、話し合いをさせたことが、児童同士で思考を深める上で有効であった。
11.27	授 ひまわり4組算数 星野教諭 「およその面積と体積」	○交流を通して、およその体積を求める方法を考えた授業 ・リレー説明を取り入れたことが、自分事として共に考え練り上げる上で有効であった。
11.29 地区 別 人権 授業 研究会	授 2年国語 栗原教諭 「そうだんにのってください」	○互いの考えを大切に、考えをつなぐ話し合い活動をした授業 ・交流の視点を明確にしてグループ同士でアドバイスし合ったことが、話し合いの仕方を習得する上で有効であった。
	授 4年道徳科 本多教諭 「つくればいいでしょ」	○互いのよさを伝え合い、自己有用感を高めることができた授業 ・自分のよさを友達に教えてもらう交流を行ったことが、自分の長所に気付き、伸ばそうとする意欲をもつ上で有効であった。
	授 6年学級活動 米山教諭 「性的マイノリティ」について	○話し合いを通して自分事として人権感覚を身に付けた授業 ・ペアトークやクラス全体で自分の考えを発信・交流させたことが、児童同士が意欲的に議論をする上で有効であった。
1.27	全体会⑨	○2学期の授業実践の成果と課題を明らかにした。
2.10	全体会⑩	○来年度の研修の方向性について検討した。
3.10	全体会⑪	○来年度の研修主題、副主題について検討した。

※資質向上研修

月日	区分	講師	内容
5.8	メンター研修1	片野教諭	情報交換、相談、授業支援の工夫
6.5	メンター研修2	栗原教諭	情報交換、相談、外国語学習の進め方
6.10	メンタルヘルス研修	藤平先生	職場環境作りとメンタルヘルスについて
6.26	救急法講習	利根沼田広域 消防本部署員	心肺蘇生法研修
7.1	不審者対応訓練	茂木スクール サポーター	不審者への教師の対応研修
7.19	特別支援研修	後藤アドバイザー	特別支援教育についての講演、意見交流
9.11	メンター研修3	星野教諭	情報交換、相談、音楽学習の進め方
2.19	メンター研修4	見城教諭	情報交換、相談、次年度初めの学級経営について

〈職員一覧〉

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
校長	内藤麗子	教諭	栗原智恵	スクールカウンセラー	阿左見康成
教頭	金子平	〃	本多志帆	生活相談員	中澤直子
教諭	小野里純子	〃	米山亘	学校支援員	北村恵美子
〃	井上初枝	〃	阿達覚	〃	真庭由喜枝
〃	見城朋子	〃	小田橋恵子	〃	横山利香
〃	星野美由紀	〃	加藤大禅	〃	大淵たつ江
〃	小川賢治	〃	東直樹	初任研代替	三浦武夫
〃	戸部栄子	〃	片野佑美	用務員	霜下猛
〃	荒平幹雄	〃	吉本光輝	事務補助	村上風貴
〃	土井智穂	養護教諭	佐藤敦子	スクールサポートスタッフ	石井朴希
〃	外山明子	事務長代理	中島よし子	事務主事	山口真紀子

沼田北小学校

所在地 〒378-0056 沼田市高橋場町4898
電話番号 0278-24-4123 FAX 0278-22-0782
校長名 小野里 慶博

I 学校の経営

1 学校教育目標

- (1) 基本目標 自ら学び、豊かな心とたくましい実践力を備えた児童の育成を目指す
- (2) 具体目標 〈目指す児童像〉 ○よくまなぶ子 ○心ゆたかな子 ○たくましい子
スローガン『学び合い、認め合い、助け合う北小』

2 経営の方針

- (1) 全教職員が主体的に学校経営に参画する体制の強化：**チーム北小**
- (2) 安全・安心な学習環境の整備と安全教育の充実
- (3) 「よくまなぶ子」を育てるための、授業を核とした学習指導の工夫・改善
- (4) 「心ゆたかな子」を育てるための、道徳教育を核とした学校教育活動の推進
- (5) 「たくましい子」を育てるための、体育的活動と保健教育の推進
- (6) 家庭・地域・隣接小中学校との連携・協力の強化：**コミュニティスクールの推進**

3 本年度の重点施策 【 】は沼田市独自施策との関連

- (1) 「チーム北小」の強化に向けて
 - ①経営方針の明確化と各主任・担当を中心とした組織的・計画的・継続的な取組
 - ②学校課題の共有とすべての教職員が互いに関わり合っ子どもを育てる意識の向上
 - ③児童と向き合う時間を増やすための、校務のスリム化と組織的・計画的な学校経営
- (2) 安心・安全な学習環境の整備と安全教育の充実に向けて
 - ①施設・設備の定期点検をもとにした校舎内外の整備
 - ②危機管理マニュアルの実効性の検証と計画的な危険予測・回避能力の育成【セイフティ沼田】
 - ③児童一人一人の健康に関する情報（既往症、アレルギー等）の共有と適切な指導・支援
- (3) 「よくまなぶ子」の育成に向けて<研修主任と学力向上C○をリーダーとした組織的・計画的な取組>
 - ①児童の能力を最大限に引き出す授業の実践【わくわくスクール沼田】
 - ②育成する力やねらいの明確化
 - ③「めあて」「見通し」「ともに考え、深める場」「振り返り」を意識した授業づくり
 - ④「主体的・対話的で深い学び」の実現による、「できた・分かった」等の喜びをもたせる授業づくり
 - ⑤「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化及びICTの効果的な活用
- (4) 「心ゆたかな子」の育成に向けて<道徳教育を核とした教育活動の推進>
 - ①多面的な児童理解と積極的な生徒指導による「自己肯定感」「自己有用感」の育成
 - ②いじめを許さない心を育てるための子ども主体のいじめ防止活動の充実
 - ③一人一人が活躍できる学校行事や学級活動の工夫
 - ④「SOSの出し方・受け止め方」に関する教育の推進【児童の命を守り、育てる教育】
- (5) 「たくましい子」の育成に向けて<各種計画を核とした身体と心の健康の増進>
 - ①家庭と連携した規則正しく、規律正しい生活習慣の育成
 - ②健康に関する諸計画の推進と学校保健委員会を活用した健康づくりに関する指導の充実
 - ③体力向上プランを核とした体力の向上と運動能力の育成
 - ④身体と心の健康を自分で守るための学校保健、食育、教育相談の推進
 - ⑤児童の挑戦の下支えとなる心（やる気、勇気、粘り強さ等）と身体（体力）の育成
- (6) 家庭・地域・隣接小中学校との連携・協力に向けて<コミュニティ・スクールの推進>
 - ①地域学校協働活動推進員と連携した家庭や地域との協働による学校づくりの推進
 - ②生活科や虹の時間（総合的な学習の時間）等における地域教材、講師となる地域人材の発掘
【ぬまた未来創造学】
 - ③安心・安全な学校づくりに向けた保護者や地域との連携・協力
 - ④隣接幼小中学校との連携【幼小中連携】

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～ 主題 考えを深め合う北っ子の育成 副主題 ～算数科における協働的な学びを充実させるための工夫を通して～	
児童の実態との関わり <ul style="list-style-type: none">・昨年度の校内研修を通して、協働的な学びに取り組み、自分の考えをもち、友達の考えと比較したり、整理しながら深めたりすることができるようになってきた。・学力検査の結果からは「主体的に取り組む態度」の得点率が高いが「思考・判断・表現」に課題が見られる。	指導の在り方との関わり <ul style="list-style-type: none">・昨年度の研修を基に、算数の授業で協働的な学びに取り組み、教科の特性や見方、考え方を踏まえて、考えを深め合う活動を充実させる必要がある。・児童の考えがより深まるような働きかけが必要である。・個々が学びを自覚できる振り返りの時間の確保が課題である。

2 研修内容・方法

- (1) 具体化した目指す児童像
- 【低学年】自分の考えをもち、協働的な学びの中で、自分と友達の考えの良さに気付くことができる。
 - 【中学年】協働的な学びの中で、自分の考えを広げたりまとめたりすることができる。
 - 【高学年】協働的な学びの中で、自分の考えをより良くしたり、新しい考えを導き出したりすることができる。
- (2) 具体化した目指す児童像を達成するための共通実践する手立て
- ・追究する過程では「考えるための技法」を用いて、効果的に思考することができるようにする。
 - ・協働的な学習では、新たな視点を示したり問い返したりするなどの教師の働きかけや、児童同士でも考えをつないで、深められるようなしなやかな工夫をする。
 - ・協働的な学習により広がったり深まったりした考えを、個々が振り返り、学びを自覚できる時間を設定する。

3 研修計画・経過報告

4 これまでの研修の成果と今後の取組

- 成果
- ・協働的な学びの場の工夫により、主体的に考えを伝え合う姿が見られ、児童が自分の考えと友達の考えを比べ、お互いの考えの良さに気付いたり、考えを広げたりすることができた。
 - ・教師がファシリテーター的存在となり意図的・計画的に児童に働きかけたことにより、児童の考えが広がったり深まったりしていた。
- 課題
- ・協働的な学習で自分の考えが広がる児童が多かったが、深めたり自分の考えを再構築したりすることに至る児童が少なかった。
 - ・個々が学びを自覚できる振り返りの時間を十分に確保することが難しかった。
- 課題解決に向けた今後の取組
- ・協働的な学習で広がった考えを、自分の考えに取り入れ、深めるところまで到達するために必要な視点の提示方法や手立てなどを検討していく。
 - ・個々が学習を振り返り、学びを自覚できる時間を確保するために、展開での活動の精選や、振り返り際の具体的な視点の提示方法などを引き続き検討・実践していく。

3 研修計画・経過報告

☐ は、指導案検討 ☒ は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画 [内容]	経過報告
		○研修の視点(上段)・明らかになったこと(下段)
04.17	研修①推 今年度の研修計画立案	○研修主題の吟味と研修計画の検討
04.22	研修②全 今年度の研修の方向性の確認	○研修主題と「協働的な学び」の確認
05.22	研修③全 目指す児童像の確認 学力向上研修①	○目指す児童像、共通実践する手立ての吟味と、指導案作成形式の確認
06.20	☒指導主事A訪問	・研究授業、授業研究会
06.26	研修④全 A訪問の振り返り B訪問代表授業者の決定 1人1授業の計画作り	○A訪問の反省、B訪問の代表授業者決定 ○指導案形式の確認と1人1授業の実施・検討会の進め方について ・共通実践する手立てや校内研修に関わる事項の記述方法について共通理解を図った。
08.28	研修⑤全 B訪問に向けての指導案作りと教材準備	○B訪問授業の学習指導案の検討 ○ICTの活用方法 ・系統を意識した指導計画、学年の実態に応じた、協働的な学びを充実させる工夫の必要性を確認できた。
09.10	☒1人1授業 3年1組 算数 荒木 麻弥教諭 学力向上研修②	○「協働的な学びの場の工夫」について ・多くの考えに触れる機会を設定したことは、考えを広げるヒントになったり自分の考えの確認になったりして有効な手立てであった。
09.27	☒1人1授業 4年2組 社会 真庭 秀樹教諭	○考えを深め合うための話し合いの場の工夫 ・討論会形式で、グループでの意見交換と全体共有を交互に行うことで、異なる意見を聞くことができ、考えを深められる手立てであった。
09.30	☒1人1授業 4年1組 算数 小林 拓美教諭	○「協働的な学びの場や学習形態の工夫」について ・ICTを活用して意見共有をすることで、聞くだけでなく、画面を見ながらより多くの意見に触れることができ、考えを広げることができた。
09.30	研修⑥全 B訪問指導案検討	○B訪問授業学習指導案の検討 ○1人1授業の経過報告 ・ICTの活用が有効な場面、協働的な学びを充実させるための工夫など、ここまでの研究授業における有効な手立てや課題を確認できた。
10.11	研修⑦推 B訪問指導案検討	○B訪問授業学習指導案の検討 ・授業のねらい、評価規準、学習形態などの再検討を行った。
10.21	☒1人1授業 2年2組 算数 生方 穂乃香教諭	○「協働的な学びの場の工夫」について ・必要な児童はヒントカードを活用し、自分の考えをもってグループ活動に取り組んだり、ICTの比較機能を使ったりすることは、お互いの考えの相違点に気付くことに有効であった。
10.23	☒1人1授業 2年1組 算数 藤井 剛史教諭	○「協働的な学びの場の工夫」について ・考えの違いを可視化することで、協働的な学びの場では、話し合いが活発になり、考えを広げたり深めたりするために有効な手立てであった。
10.23	研修⑧全 B訪問授業準備	○B訪問授業学習指導案の最終確認 ○真下一平教諭 大学院での取り組みについて
10.30	☒1人1授業 1年1組 算数 角田 淑子教諭	○「協働的な学びの場の工夫」について ・具体物やホワイトボードなど、各自が取り組みやすい方法を選べるように準備したため、自力解決することができ、自分と友達の考えの良さに気付くことに有効な手立てであった。
10.30	☒1人1授業 4年2組 算数 林 美里教諭	○「ICTの活用方法」について ・児童同士で考えをつないで、深められるように、既習事項や自力解決のヒントなどをICTに保存しておくことは、協働的な学習の中で、自分の考えを広げたりまとめたりするための有効な手立てであった。
11.05	☒1人1授業 3年1組 算数 佐藤 直樹教諭	○「効果的に思考することができるようにするための工夫」について ・具体物を準備し、体験的な活動を取り入れることで、児童が主体的・対話的に取り組めた。
11.8	☒1人1授業 5年1組 算数 石田 真規教諭	○「教師の働きかけ」と「児童同士で考えをつないで、深めるための工夫」について ・数学的な見方、考え方につながる教師のゆさぶりにより、児童は新たな考えを出したり、さらに深めたりしていた。

11.11		授1人1授業 なかよし 算数 上山 和真教諭	○「進んで自力解決できるようにするための工夫」について ・児童の興味が尽きないよう適所で資料や情報を ICT で提示することより、児童が最後まで集中して取り組めた。
11.15		授1人1授業 1年2組 算数 河野 徳子教諭	○「協働的な学びの場の工夫」について ・算数の見方・考え方を意識して解決方法の見通しをもたせて自力解決させることで、自分の考えをもつことができ、協働的な学びの中で自分と友達の考えの良さに気付くことができた。
11.20		授1人1授業 5年1組 理科 登坂 一彦教諭	○「教師の働きかけ」と「児童同士で考えをつないで、深めるための工夫」について ・魅力的な課題の提示や理科の思考に沿った活動の流れが確立していたため、児童が協働的な学びの中で考えをつないだり深めたりすることができた。
11.22		授指導主事訪問B 6年1組 深津 美帆教諭	○「協働的な学びの場の工夫」について ・生活場面に結びつく魅力的な課題を設定し、算数の見方、考え方を提示することで、自力解決の意欲が高まり、協働的な学びの中では、新しい考えを導きだしたり、自分の考えを修正したりすることができた。
12.02		授1人1授業 なかよし 算数 小尾 浩三教諭	○「進んで自力解決できるようにするための工夫」について ・児童に合わせた教具や教材の準備、声かけを行うことにより、個々が自ら進んで取り組むことができていた。
12.06		授1人1授業 わかば 算数 白岩 良子教諭	○「進んで自力解決できるようにするための工夫」について ・問題を解きながら、取り組み方や考え方の良さを伝える言葉かけをしたり、ふりかえりの場面でキーワードを伝えたりすることで、学習内容を自覚することができていた。
12.13		授1人1授業 通級 自立活動 角田 泉教諭	○「教師の働きかけ」と「進んで活動するための工夫」について ・学習課題に沿った声かけをしたり、児童に合わせて活動内容を変更したりすることで、主体的に活動することができた。
12.04	研修⑨全	今年度の成果と課題	○校内研修の成果と課題について ○冬季休業中の年間指導計画の朱書き・教材整理について
01.27	研修⑩推	来年度の研修主題について	○研修主題、研修内容等の選定
02.05	研修⑪全	来年度の研修主題について 学力向上研修②	○研修主題、研修内容等の決定

※資質向上研修

月日	区分	講師	内容
05.01	保健研修①	外部講師	・心肺蘇生法研修 利根沼田広域消防署職員
05.22	学力向上研修①	学力向上Co	・学力向上の取組、学力検査分析
05.27	保健研修②	養護教諭	・食物アレルギーについて、エビペンの使い方
08.22	資質能力向上研修①	外部講師	・FigJamの活用方法、Google Workspaceの授業・校務における活用 群馬県総合教育センター 清水 幸治 指導主事
08.28	資質能力向上研修②	外部講師	・群馬県教育ビジョンの実現に向けた学校の取組について ～エージェンシーを発揮する学びを推進するために～ 群馬県教育委員会義務教育課 教科指導係 高橋 学 補佐
9.10	学力向上研修②	学力向上Co	・全国学力学習状況調査解説等
11.28	危機管理研修	外部講師	・不審者侵入時の対応に関する職員の訓練 沼田警察署 筒井 好文 スクールサポーター
12.04	資質能力向上研修③	外部講師	・非認知能力の育成について 川場中学校 岡田 慎史 教諭
01.27	特別支援研修	特別支援教育C0	・通常の学級における発達障害のある児童への支援について
02.14	学力向上研修③	学力向上Co	・学力検査結果考察による児童の実態把握と指導改善

〈職員一覧〉

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
校長	小野里 慶博	教諭	河野 徳子	主幹事務長代理	川浦 博史
教頭	須藤 厚子	教諭	荒木 弥	教諭(置籍)	真下 一平
教諭	登坂 一彦	教諭	上山 和真	用務員	田村 健司
教諭	真庭 秀樹	教諭	石田 真規	生活相談員	大竹 順子
教諭	角田 淑子	教諭	中村 穂乃香	学習支援員	大國 井みゆき
教諭	藤井 剛史	教諭	小尾 浩三	学習支援員	中澤 京子
教諭	白岩 良子	教諭	入澤 浩史	学習支援員	関 真美
教諭	深津 美帆	教諭	林 美里	教員業務支援員	戸部 成実
教諭	小林 拓美	教諭	佐藤 直樹		
教諭	角田 泉	養護教諭	小林 真奈美		

升形小学校

所在地 〒378-0014 沼田市栄町141番地
電話番号 0278-22-3107 FAX 22-0783
校長名 阿部 かおる

I 学校の経営

1 学校の教育目標

- 基本目標 夢をもち、自ら学び心豊かにたくましく生きる児童の育成
具体目標 ○進んで学ぶ子 (自ら学び、よく考える子)
○思いやりのある子 (相手の気持ちを考え、仲良くできる子)
○ねばり強い子 (心身共に健康で、最後までがんばる子)

2 経営方針

- 《目指す学校像》 「 学び合い 励まし合い 高め合い 」
子どもが輝き、今日が楽しく、明日が待たれる学校
《目指す教職員像》「学び合い 励まし合い 高め合い 学び続ける教職員」
○やる気と情熱をもち、子どものよさを伸ばす教職員
○常に専門性の向上を目指し、学び続ける教職員
○児童、保護者、地域を大切にし、信頼される教職員
《学校経営の方針》
○全教職員が力を合わせて主体的・組織的に学校経営に参画する態勢の強化【創造・協働・意思疎通】
○「進んで学ぶ子」を育てるための、授業を核とした探究的な学習活動の充実
○「思いやりのある子」を育てるための、道徳教育の充実と心の教育の推進
○「ねばり強い子」を育てるための、運動への主体的な取組と保健教育の推進
○一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進
○地域とともにある学校づくりを目指した、家庭や地域との連携・協働

3 本年度の重点施策

(1) 学校経営の充実

- ・「学び合い 励まし合い 高め合い」を合い言葉に、教職員の協働体制を高め、組織で取り組む温かく活気に満ちた学校・学級経営の充実を図る。
- ・報告・連絡・相談を密にしお互いに声を掛け合い、日常的に情報交換ができる明るく風通しのよい職場をつくる。
- ・「群馬県教員育成指標」を基に人事評価制度や各種研修を活用してキャリア段階に応じた職能成長を図る。

(2) 確かな学力の育成

- ・培う力を明確にした探究的な学習を実践し、児童が自ら学ぶ力を育成する。【2024 学力向上対策】
- ・的確な学習状況の把握と個に応じたきめ細かな指導（指導と評価の一体化）を充実させることで、学級全体の学びに向かう力を高め、粘り強く学習に取り組ませる。
- ・指導のねらいを踏まえて1人1台端末等のICT環境を効果的に活用し、「分かる・できる・学び合う」授業づくりに努め、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。

(3) 豊かな人間性の育成

- ・学校行事や異学年交流において児童が活躍する場面を設定し、自己有用感を高めるとともに、自他のよさを認め合う人間関係を形成する。
- ・「考え・議論する」道徳の時間の質的な充実に向けて授業を工夫・改善するとともに、道徳科の授業を要とし教育活動全体を通して道徳教育を推進する。【道徳教育】
- ・人権教育と生命を尊重し力強く生き抜こうとする心を育てる指導の充実により、いじめや差別を許さない心を育てる。【児童生徒の生命を守り、育てる教育】
- ・明るいあいさつと返事、適切な言葉の指導、規範意識を育成する。

(4) 健やかな体の育成

- ・子どもの心身の健康の保持増進を図るために健康教育を計画的に推進するとともに感染症対策を徹底する。
- ・「早寝・早起き・朝ごはん」の励行、「元気ウィーク」「升形ますます元気の日」を生かし、家庭と連携して基本的生活習慣を確立する。
- ・体力向上プランを活用し、運動の楽しさと喜びを味わわせる教科体育や体力づくりを実践する。

(5) 特別支援教育の充実

- ・個別の教育支援計画や個別の指導計画に基づき、個々の教育的ニーズに応じた支援について学校全体で共通理解する。
- ・保護者との情報共有や専門家・関係機関との連携に努め、教育支援及び就学指導の効果を高める。
- ・教職員の専門性を高め、すべての子どもが参加し活躍できる授業を目指し、ユニバーサルデザインと合理的配慮を意識した授業づくりに努める。

(6) 地域とともにある学校づくり

- ・地域とともにある学校づくりに向けて、家庭・地域との連携を強化し、コミュニティ・スクール（学校運営協議会）と地域学校協働活動を一体的に推進する。
- ・総合的な学習の時間を中心として、明確なねらいのもとに、地域の人的・物的資源（人・もの・こと）を積極的に活用し、地域学習や体験活動を充実させる。【「ぬまた未来創造学」の推進】
- ・学びの連続性を意識し、隣接する幼稚園、中学校、高校との交流や連携を進め、異年齢集団との教育活動を充実させる。【幼小中連携】

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

副主題 主題 ～研修主題～
～各教科等の自力・集団解決の場における対話的な活動の工夫を通して～
自ら考え表現できる児童の育成

児童の実態との関わり

- ・既習事項の振り返りや思考の助けカードの提示、表現方法の提示によって、課題解決への見通しや自分の考えをもつことはできるが、考えを広げたり深めたりすることは難しい。
- ・ICTを活用することで、互いの考えを共有・比較しながら、対話的な活動を行い、考えをまとめたり表現したりすることができるようになったが、自分の考えを深めたり、深まった考えについて表現したりすることが十分ではない。
- ・個→集団→個、個→少人数→集団で対話的な活動を挟むことで、児童が段階的に考えを広げることができるが深めることは難しい。

指導の在り方との関わり

- ・集団解決の場での切り返しやつなぎなど、教師の働きかけをさらに工夫していくことにより、考えを広げたり深めたりする集団解決の充実を図る必要がある。
- ・深まった考えについて表現する場の設定や考えの深まりを児童が自覚できるような振り返りの工夫が必要である。
- ・思考を可視化することで、考えを比較・検討しやすくなり、考えを広げたり深めたりできるので、ICTを効果的に使い、目的に応じた思考ツールを教師が選択し活用する必要がある。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す児童像

◆「はばプラⅡ」に基づいた「升形小学校学力向上指導改善プラン及び探究的な学習過程の基本型」の実践を継続し、授業づくりを行う。

○課題解決に向けて、自分の考えをもち、分かるように伝えることができる児童

【低学年】課題解決に向けて、人の話をよく聞き、自分の考えを表現することができる児童

【中学年】課題解決に向けて、友達と自分の意見の違いを意識して表現することができる児童

【高学年】課題解決に向けて、友達と対話しながら自分の考えをもち、筋道立てて表現することができる児童

(2) 具体化した目指す児童像を達成するための共通実践する手立て

- ①自力解決の場において、児童がどのような考えをもつかを把握した上で、課題解決の見通しをもたせるとともに、目的などに応じた表現の方法を提示する。
- ②集団解決の場において、自分の考えを互いに表現し合えるような対話や話し合いなどの対話的な活動を取り入れるとともに、考えを比較・検討するための視点を明確にする。

3 研修計画・経過報告

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・「升形小学校学力向上指導改善プラン及び探究的な学習過程の基本型」の実践を全職員で継続することにより、どの授業においても、学習の流れを見通して主体的に課題解決に向かう姿が見られた。
- ・ICTを活用して表現する、他者の考えを共有して比較する、それを基にして思考を広げたり深めたりするなど、積極的に活用することにより、ICTを活用した学びのよさを実感し、目指す児童像に近づくことができた。

○課題

- ・他者の考えを理解し、自分の考えを深めることに課題が残る。問い返しやリレー説明等を取り入れるなど、さらに深まりを生む対話・交流の工夫が必要である。
- ・ICTで可視化する際、思考ツールなどを活用し「共通点・相違点」等に分類し、考えを整理する思考力を身に付けていく必要がある。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・児童がじっくり考える時間を意図的に設定し、ICTにより可視化した考えを基に比較・検討させながら考えを深められるように、より効果的な授業を展開していく。
- ・教師が個々の児童や班の学習状況に応じた問い返しや揺さぶりをを行い、自力及び集団解決の学習を充実させる。

3 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画〔内容〕	経過報告〔○研修の概要（上段）・明らかになったこと（下段）〕
	・研修主題・内容・方法・ についての検討	・共通理解をし、対話的活動を取り入れた授業実践を行い、成果と課題を積み重ねていく。
5.20	全体会② ・研修内容・計画の検討	○授業実践の進め方について ・学年ブロックごとに計画的に研究授業や授業研究会を行い、実践を積み重ねていく。
6.14	授 吉澤早紀教諭 5年体育「ティーボール」	○思考を深める対話的な活動について ・ゲームの途中で作戦タイムを設けたことは、タブレットを活用し思考するために有効であった。 ・話し合いに参加できない児童への対応を工夫する必要がある。 
6.17	全体会③ ・授業改善について	○深い学び、授業改善について ・子ども達が主体的に活動するために、観点を示したり、子どもたちの発言をつなぐ教師の言葉掛けを工夫したりする必要がある。
7.1	<指導主事訪問A> ・研修の意義 ・進め方の理解	○研修の内容・方向性について ・手立てを明確にして実践を行い、具体的な姿を焦点化して、授業を検証していく。
7.4	授 登坂厚子教諭 1年算数 「のこりはいくつ ちがいはいくつ」	○思考を深める対話的な活動の流れについて ・場の工夫や言葉で説明させてから操作させるなど対話・交流で思考を深めるために有効であった。 ・対話的な活動の場面において、話し合いの視点があるとより思考が深まった。 
7.5	授 青木和成教諭 4年道徳 「みんなが気持ちよく」	○思考や表現を促す視点の提示について ・対話的な活動の場面で、話し合いの視点を提示したことは、思考や表現を促すことに有効であった。 ・集団活動の場におけるタブレットの効果的な活用方法については、検討が必要である。 
7.12	授 諸田香奈教諭 自立活動 「このあと、どうなる？」	○ロールプレイを用いた対話的な活動について ・身近な場面のロールプレイは場面が想像しやすく、対話的な活動を行うのに有効であった。 ・振り返りの時間が少なくなってしまったので、場面をしぼる必要があった。 
8.21	全体会⑤ 指 水準授業	○3年算数の指導案検討と今後の指導案検討や今後の予定の確認 ・集団解決の場における支援の方法やロイロノート及び思考ツールの活用方法について検討する必要がある。
9.2	全体会⑥ 指 水準授業	○6年国語の指導案検討 ・集団解決の場における支援の方法やロイロノート及び思考ツールの活用方法について検討する必要がある。
9.30	全体会⑦ 指 水準授業	○教育水準向上研究授業指導案検討 ・ねらいと振り返りの整合性及び表現について検討が必要。 ・集団解決の場における思考ツールの活用について再考が必要。
10.2	授 篠原恭代教諭 自立活動 「分身の術を身につけよう」	○ペーパーパートを用いた活動を通して考えを深める工夫について ・ペーパーパートでイメージをもてたので、異学年で交流し考えを深めることに有効であった。 ・意見をもたせてから話し合い、ねらいに迫るために内容を焦点化する必要がある。 
10.17	授 兵藤麻桜香教諭 2年算数 「かけ算（1）」	○主体的に課題解決をするための自力・集団解決の工夫について ・提出箱機能を用いたことで、自分と友達の考えの相違点や共通点に気付くことができた。 ・学習内容のポイントの板書や掲示物と式を組み合わせることで、定着を図る必要がある。 
10.18	授 生方成海教諭 4年算数 「四角形」	○子ども同士で主体的に意見交流をするための工夫について ・具体物を操作して考えさせたことで、自力解決をすることができた。 ・考えを深める時間を確保し、考えを比較・検討させる必要がある。 
10.21	全体会⑧ ・学力向上対策フォーラムの内容の共有	○学力向上対策フォーラムの内容の共通・理解 ・パス回し型の授業を意識し、教材研究や発問を工夫する必要がある。 ・発達段階に応じて、ICTを効果的に活用していく必要がある。
11.1	授 角田順子教諭	○対話的な活動におけるICT活用の工夫について

	6年外国語 「Unit5 Where is it from?」	<ul style="list-style-type: none"> 交流を多く取り入れたので、児童は、やり取りに慣れることができた。 交流前に個別やペアで練習する時間を確保し、感想やアドバイスを伝えることで自信をもたせる。 	
11.8	全体会⑨ 指 水準授業	○教育水準向上研究授業準備 ・3年、6年の指導案最終確認を行う。	
11.14	授 教育水準向上研究授業研究会 ・土屋成史教諭 3年算数 小数 「1より小さい数を表そう」 ・石井千恵美教諭 6年国語 『鳥獣戯画』を読む 「発見、日本文化のみりよく」	○指導案及び研究授業に基づく指導・助言 ・集団解決の場において、考えを互いに表現できるように、対話的な活動の目的と方法、比較・検討するための視点を明確にすることにより、新しい考え方を意識することができた。 ・考えを広げたり、深めたりできるように、対話的な活動と「見方・考え方」を働かせるための発問とを関連させ学習過程を組み立てる必要がある。 ・ねらいが明確で、目的がはっきりしていたので、児童は、意欲的に対話的な活動が行えた。また、対話・交流する際の視点が明確だったので、理解を深めることができた。 ・効果的な対話的な活動をする際の共有ノートの活用方法を検討することで、より児童の「見方・考え方」を働かせることができたのではないかと。	 
11.29	授 上原純子教諭 1年音楽 「せりりつがよびかけあう おもしろさを感じながら ききましょう」	○呼び掛け合いの面白さを表現する工夫について ・めあてに迫るための手立てが複数、用意されていたので、児童は呼び掛け合いに親しめた。 ・振り返りの時に、めあてに戻れるとキーワードをより意識したものになった。	
12.20	授 小池寿久教諭 6年音楽 「曲想の変化を楽しもう」	○主体的に鑑賞に取り組める工夫について ・音楽的要素と曲想について、例えも入れて説明したので、ねらいに沿った鑑賞ができ、対話・交流も手立てがありスムーズだった。 ・感想がもてない児童や話し合いに参加できない児童への手立てを講じる必要がある。	
1.27	全体会⑩ ・授業実践の成果と課題	○授業実践の成果と課題の検討	
2.10	全体会⑪ ・研修のまとめ・学力検査結果考察	○研修の成果と課題のまとめ、学力検査結果考察による実態把握と指導改善	
3.3	全体会⑫ ・研修のまとめ ・来年度の研修計画検討	○研修の成果と課題のまとめ、来年度の研修主題、副主題の検討	

※資質向上研修

月 日	区 分	講 師	内 容
5.23	教職員のメンタルヘルス研修	外部講師（自立支援アドバイザー 藤澤都茂子氏）	・ストレスとの上手な付き合い方
6.17	アレルギー研修	養護教諭	・エピペンの使用法
全体会④ 7.16	特別支援教育研修	特別支援コーディネーター	・これからの特別支援教育について (合理的配慮)
7.17	AED研修	外部講師 (利根沼田広域消防本部署員)	・心肺蘇生法研修
8.22	教職員のメンタルヘルス研修	外部講師（自立支援アドバイザー 藤澤都茂子氏）	・組織内でのメンタルヘルスへの取り組みについて
8.26	特別支援教育研修	外部講師（利根教育事務所 スーパーバイザー原澤幾子氏）	・発達障害のある児童への対応について
11.8	ICT研修	外部講師（利根教育事務所 教育DX推進リーダー 小松峻氏）	・教育水準向上研究授業研究会の使用ツールについて
12.16	不審者対応研修	外部講師（スクールボーター 筒井好文氏）	・不審者への具体的な対応について

<職員一覧>

職 名	氏 名	職 名	氏 名	職 名	氏 名
校 長	阿部 かおる	教 諭	篠原 恭代	事務主事	星野 久実子
教 頭	堀込 芳洋	教 諭	諸田 香奈	非常勤(総務)	本田 祐子
教 諭	上原 純子	教 諭	土屋 成史	非常勤(理科)	小野 修一
教 諭	登坂 厚子	教 諭	兵藤 麻桜香	スクールカウンセラー	廣田 莉奈
教 諭	青木 和成	教 諭	吉澤 早紀	生活相談員	大竹 ゆかり
教 諭	角田 順子	教 諭	生方 成海	学校教育支援員	星野 昇
教 諭	小池 寿久	教 諭	高橋 葵	学校教育支援員	今井 由香
教 諭	石井 千恵美	養護教諭	本郷 郁香	用務員	熊澤 正幸

利南東小学校

所在地 〒378-0003 沼田市上久屋町2135番地
電話番号 22-3006 FAX 22-0784
校長名 秋元 秀文

I 学校の経営

1 学校の教育目標

【基本目標】 社会の変化に主体的に対応できる豊かな心、高い知性、強い意志を備え、生き生きと自己表現でき、心身ともにたくましい実践力のある子どもを育成する。

【具体目標】 ○すすんで勉強する子（自ら考え進んで勉強する子）
○思いやりのある子（他人の気持ちになって考え、助け合う子）
○心身ともに健康な子（元気に明るく毎日を過ごせる子）
○ねばり強くやりぬく子（目標を持ってしっかりとがんばれる子）

2 経営方針

(1) 目指す学校像 『自信と誇りにあふれた学校』

【TONAMIプライド】（「じぶん・ともだち・がっこう・となみ」のいいところ）

- ①子どもが自分に自信をもち、友達・学校・地域を誇りに思う学校
 - ②教師が、子ども・学校・地域を誇りに思う学校
 - ③子どもを一番に考える学校（子どもの目線・子どもファースト）
 - ④保護者・地域から信頼・応援される学校
- R6手立ての重点として「ともに」をキーワードに以下の内容を包括的にとらえる。
いろいろなひとと「ともに」 「子ども」⇔「教師」⇔「保護者・地域」
いろいろな学びと「ともに」 「教科・単元」⇔「道徳」⇔「特活」⇔「総合」⇔「行事」

(2) 目指す教師像 『子どものよさを見つけ、主体性を尊重する教師』

- ①互いに気遣い、「自分のこと」として考える教師
- ②理論だけでなく「まず動く」教師（率先垂範・師弟同行）
- ③本質を見つめ、「目的と手段」を区別する教師

(3) 目指す授業像 『子どもが中心で、教師は補助する授業』

- ①児童が自分からやってみたくなる授業
- ②「小さなハードル」と「成功体験」を積み重ねる授業
- ③「日常生活」と結び付け、「ゴール」が明確で、「見通し」がもてる授業

3 本年度の重点施策

(1) ICTを活用した確かな学力の向上（「知識・技能」と「自分の考え」を両輪に）

- ・教科担当制の活用による専門性を生かした指導の向上と多面的な生徒指導の充実
- ・繰り返し学習の徹底による「基礎的な知識・技能」の確実な定着
- ・「自分の考えや思い」を基盤にした問題解決的な学習（TONAMIスタイル）の継続的な実践による思考力・表現力の育成
- ・専科教員とALTの積極的・計画的な協働による外国語活動及び外国語科の授業の充実
- ・家庭との積極的な連携による自主的な学習習慣の確立

(2) 安全の確保と健康の保持増進（子どもの命を徹底的に守る）

- ・命を守るため、登下校と緊急時の安全確保（通学路の安全点検・登下校の行動指導）
- ・新型コロナウイルス等、感染症対策の徹底（保健活動の充実・家庭との連携強化）
- ・全校体制による「体力向上プラン」の計画的な推進（運動機会の意図的な設定による運動量の確保）

(3) 豊かな心の育成

- ・自分に自信をもつ指導の推進（自己肯定感・自己有用感を高める指導と支援）
- ・「考え議論する道徳」の一層の充実（教材研究の深化と考えを揺さぶる発問の意図的な設定）
- ・特支コーディネーターを中心に、全教職員が参加意識をもって組織的に関わる特別支援教育の充実
- ・「集団の合意形成」と「個人の意志決定」を重視した学級活動の計画的な実施

(4) 家庭・地域、幼・中との連携

- ・保護者との意図的・積極的・計画的な連携（互いに顔が見える関わりの実現）
- ・各種たよりやWebページによる家庭や地域への情報発信の充実
- ・「地域で育てる地域の学校」の実現（PTA・学校支援ボランティアとの協働）
- ・外部機関と積極的に連携した教育相談の充実（SC・SV・SSW・福祉部局）

(5) 全教職員の経営参画と職能成長

- ・組織的で日常的な情報共有と迅速な対応の実現（危機意識、報告・連絡・相談・確認・記録）
- ・各主任が中核となる組織的な分掌運営の充実と目的を重視したコーディネーター意識の向上
- ・教育公務員としての高い倫理観と日常における服務規律意識の向上（子どもに背中を語る教師）
- ・業務削減と効率化、働き方改革の継続と一層の充実（時間外勤務の削減と退庁時刻管理の徹底）

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主題 自ら考え、共に学びを深められる児童の育成

副主題 ～自分の考えを他者に分かりやすく伝える活動を通して～

児童生徒の実態との関わり

- ・基礎的な学習内容の定着が不十分であり、各学級・学年間で学力差がみられる。
- ・考えを表現したり根拠をもって説明したりできる児童が限られ、共に学びを深めることに課題がある。

指導の在り方との関わり

- ・考えを伝える活動を、日常的・計画的に積み重ねていく。
- ・教科等の特性や児童の発達段階に応じて、分かりやすく表現したり考えを伝えたりすることができるようにする手立てが必要である。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す児童像

【低学年】既習事項や根拠を基に、自分の考えや思いをもち、相手の話をよく聞いて、考えの共通点や相違点に気付くことができる。

【高学年】既習事項や根拠を基に、自分の考えや思いをもち、相手の考えのよさを取り入れて、考えを広げたり深めたりできる。

【特別支援】既習事項や根拠を基に、自分の考えや思いをもち、表現することができるようにする。

(2) 共通実践する手立て

- ・中心活動で必ず「自分の考え」をもたせ、それを他者に分かりやすく伝える活動を取り入れる。
- ・考えを分かりやすく伝えることができるように、伝える際の手助けとなるような話型の活用を図ったり、多様な活動形態を取り入れたりするなど、児童の実態や教科の特性に応じた手立てを工夫する。

3 研修計画・経過報告

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・具体的な日常場面を想起しやすい問題提示と多様な表現活動で、問いに対する自分の考えを引き出すことができた。
- ・実物、記号、図、言語などの表現ツールの工夫により、児童が自分の考えを分かりやすく伝えることができた。言語だけでなく、多様な表現ツールをもっておくことが大切であることが分かった。

○課題

- ・解決方法や考えを言語に置き換えることができない児童もいる。また、自分の意見に関係したことを述べたりつぶやいたりすることはできているが、断片的な思考をつなげたり、思考過程を共有したりする活動を工夫する必要がある。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・友達の考えを読む場面や、聞き手が話し手の話を聞き、新たに思ったことなどの反応する場面を設定し、「伝える」から「伝え合う」活動に発展させていきたい。

3 研修計画・経過報告 指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画〔内容〕	経過報告〔○研究の視点(上段)・明らかになったこと(下段)〕
4.17	研修推進委員会	○研修主題・副主題・研修計画の原案作成、研修計画の検討。
4.22	・研修計画の検討	○研究の内容と方法等、校内研修計画の確認。
5.20	・研修計画の検討	○研究内容や方法、訪問授業者の検討。指導案形式の確認。
6.17	授5年 道徳「広い心」 尾形あや教諭 (全体会)	○役割演技で主人公の気持ちを伝えさせたことは、相手の立場になって失敗を許そうとする心情を育てる上で有効であったか。 ・話型や活動形態の工夫により、自分の考えを相手に伝えることができた。
6.28	指導主事訪問 A	○指導主事訪問 A、研修への指導助言。
7.8	・A 訪問の共通理解	○研修への指導助言等共通理解。
7.16	授通級 自立「ぼくの漢字のおぼえかた」 小林庸子教諭 (特別支援)	○活動後のふり返りを言語化させたことは、取り組みや意欲・態度についての自己理解を育むために有効であったか。 ・答え方についての指導や、相手の問いかけに対しての反応の促しなど、対話的な関わりを活かすことができた。
7.18	授6年 社会 「貴族のくらし」 中塚詩織教諭 (低学年)	○シンキングツールを活用して調べた後に、仲間と調べる活動を取り入れることは、各々の意見の整理や学びを深める上で有効であったか。 ・ロイロノートのツールを効果的に使うことで、思考を整理させたり、情報を比較したり、共有することができた。
9.2	研修推進委員会	○研修計画の再確認。
9.2	授5年 理科 「花から実へ」 星野勇教諭(高学年)	○アサガオとヘチマの花や花粉の相違点について、個々に原稿を作成させ発表させたことは、思考力や表現力を培うために有効であったか。 ・調べたことをもとにして、花のつくりや花粉の相違点を見つけ発表することができた。
9.27	授3年 道徳 「家族だから」 大関一久教諭(低学年)	○だいすけの顔の絵を描き、それを使ってだいすけの気持ちを説明したことは、自分の考えを他者に分かりやすく伝えるのに役に立たったか。 ・顔を描かせてどのような気持ちか説明させることはいい方法であった。
9.30	指・B 訪問指導案検討	○B 訪問指導案の授業の視点や本時の展開について検討。
9.30	授4年 算数 「倍の見方」 吉野幸恵教諭 (高学年)	○テープと数直線を組合わせた図から数量関係を把握させ、もとにする大きさを「1」と見ることを理解させたことは、倍の意味を考えさせるのに有効であったか。 ・プリントに分かりやすく図やキーワードをまとめさせることを通して、児童に倍の意味を考えさせることができた。
10.7	授6年 道徳 「友情を深める」 佐伯悠教諭 (高学年)	○ロレンゾの友達の考えをもとに自分ならどうするかを考えさせ、話し合わせることは友情を深めようとする心情を育てるのに有効であったか。 ・色分けをすることで視覚的に他者の考えを把握しやすくなり、話し合いが活発にでき、友情に対して考えを深められた。
10.9	授わかば(情緒)国語 「なかまのことばとかん字」 林路代教諭(特別支援)	○仲間分けの理由を伝え合う活動をしたことは、意味のまとまりに着目したり、語彙を増やしたりするのに有効だったか。 ・話型を用意することで、どの児童も発表ができた。
10.10	授6年 算数「場合の数」 本田千結教諭 (高学年)	○並べ方について、ロイロノートのカードを動かしながら調べたことは、落ちや重なりのない並べ方を考えさせるのに有効であったか。 ・カードに考えを書き込みながら、順序良く並べる方法を他者に説明することができた。
10.10	授わかば(情緒)算数	○図形の描き方の共有のためにデジタルコンテンツを利用したことは、方眼

	「三角形と四角形」 原泰章教諭 (特別支援)	用紙へ形を作図するのに有効だったか。 ・具体物を使い児童に仲間分けさせることで形の復習がよくできていた。
10.15	授わかば(知的)算数 「水のかさ」 阿左見成美教諭 (特別支援)	○実物や図をもとにして考え、話し合う活動をしたことは、水のかさを適切に表現する力を高めるのに有効であったか。 ・話型を提示することにより、伝えることが苦手な児童も自分の考えを伝えることができた。
10.16	授わかば(知的)算数 「水のかさ」 春原亜由美教諭 (特別支援)	○水のかさを予想して自分の考えを説明したり、友だちと相談しながら測定したりしたことは、かさの大きさの違いを比較するのに有効であったか。 ・直接比較をして、日常生活の場面での必要感を感じさせることや量の多さを納得することができていた。
10.21	授3年 算数 「かけ算の筆算」 永井翔馬教諭 (低学年)	○筆算の仕方を考えたり、他者に伝えたりする活動は、計算・筆算の仕方を定着させるのに有効であったか。 ・自分の考え方と他者の考え方を比較しながら、より正しく、分かりやすい筆算の仕方を考えることができた。
10.21	指・B 訪問指導案検討	○B訪問指導案の本時の展開の確認・検討。
10.22	授2年 算数「かけ算」 原晃子教諭 (低学年)	○乗法を用いられる場面を図から状況を把握させ、文章問題を作成したり、式に表したりすることは、乗法のきまりを考えさせるのに有効であったか。 ・挿絵から数のまとまりを見つけ、問題を作成することでかけ算のきまりを確認することができた。
10.30	指導主事訪問 B 授1年 算数「たしざん」 杉島和佳奈教諭 (全体会)	○挿絵や身の回りの場面から問題をつくり、図や言葉で伝え合う活動を取り入れたことは、繰り上がりのある加法の問題を解決する上で有効であったか。 ・キーワードの提示や、ペア・全体で伝え合う活動により、考えを分かりやすく伝えることができたり、考えの相違点に気付いたりすることができた。
11.25	・B 訪問の共通理解	○指導主事訪問 B の共通理解と今年度を振り返って。
12.2	・研修のまとめ	○今年度の研修の成果と課題、「沼田市の教育」について。
1.20	・次年度の研修	○次年度の方向等について。
2.3	研修推進委員会	○次年度の研修主題・副主題の仮決定。
3.3	・次年度に向けて	○今年度の成果と課題の共通理解と次年度の方向性確認。

〈職員一覧〉

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
校長	秋元秀文	教諭	尾形あや	教諭	小林庸子
教頭	齋藤恵美	教諭	佐伯悠	養護教諭	中條恭子
教諭	原泰章	教諭	本田千結	事務主事	萩原温大
教諭	岡村和佳奈	教諭	阿左見成美	生活相談員	能登さつき
教諭	原晃子	教諭	春原亜由美	支援員	吉野久子
教諭	大関一久	教諭	林路代	支援員	丸田裕子
教諭	永井翔馬	教諭	松井詩織	支援員	須田政子
教諭	吉野幸恵	教諭	星野勇	用務員	金井雅之

池田小学校

所在地 〒378-0073 沼田市発知新田町533番地
電話番号 0278-23-9320 FAX 0278-23-9369
校長名 井熊 美保

I 学校の経営

1 学校教育目標

- 【基本目標】 自ら考え 正しく判断し 行動できる 子どもの育成
【具体目標】 (知) 自分から進んで学習できる子ども
(徳) 思いやりのある子ども
(体) 体を鍛える子ども

2 経営方針

【めざす学校像】 ○児童が楽しいと思う学校 ○保護者・地域が信頼する学校 ○教職員が生き生きと働く学校	【めざす児童像】 ○いつも元気なあいさつ ができ、よく考え、率先 して行動できる児童	【めざす教師像】 ○子どものよさを認め伸ばすため に、チーム池小の一員として協 働し、共に学び合う教師
---	--	---

3 本年度の重点施策

(1) 確かな学力の育成 [自分から進んで学習できる子]

- ①学習内容への興味や関心を高める「めあて」と児童が「何を」「どのように学び」「何がわかったのか」を自覚できる「振り返り」の設定を徹底した授業づくり。
②1人1台学習用端末機器を効果的に活用するための学習活動の工夫と共有。
③「池田小よい子のやくそく」を活用した学習・生活習慣の徹底による安心・安全な環境の醸成。
④地域の教育力を生かした体験的な探究活動の推進による、児童が自ら課題を解決する学習の設定。
【ぬまた未来創造学】 【わくわくスクール沼田】

(2) 豊かな心の育成 [思いやりのある子]

- ①道徳科の授業を要とし、命の尊さやいじめを許さない心の育成に努めると共に、地域の方との交流体験を生かし、思いやりや協力、郷土愛などの道徳的実践力の向上を図る。
②日常生活の中で「自己存在感」「共感的な人間関係」「自己決定」の機能を生かした指導を意図的に行い、自己肯定感や自己有用感を高める。学級が児童にとって安心で安全な場所になるよう学級経営に努める。 【児童生徒の命を守り、育てる教育】
③朝読書、朝の読み聞かせの充実と図書室の利用拡大を通して、家庭と連携した読書の習慣化を図る。 【家族で本を読みましよう】

(3) 健康・体力の向上 [体を鍛える子]

- ①家庭との具体的な連携を図ることで、基本的な生活習慣、感染防止対策、望ましい食習慣を身に付けさせ、心と体の健康づくりを推進する。
②児童の目線での健康・安全指導に努め、地域・保護者と連携しながら、あらゆる機会を通して、自尊感情や危険予測・回避能力を高める。 【児童生徒の命を守り、育てる教育】

(4) 家庭・地域・小中との連携

- ①きめ細かな情報発信に努め、家庭、地域と積極的な連携を進めると共に、自然災害時の安全管理マニュアルの周知、各種訓練を通して危機管理を徹底し安全の向上を図る。 【セイフティ沼田】
②地域・小中の連携を進め総合的な学習の時間を中心にした一貫性をもった教育課程の実現や同一歩調の生徒指導により、教育効果を高める。 【幼小中連携】

(5) 特別支援教育の充実

- ①児童一人一人の良さを見取り、特別支援教育の視点を大切にしながら日常的な指導を徹底する。

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～ 研 修 主 題 ～

主題 自ら学ぼうとする意欲をもち、互いに考えを深める児童の育成

副主題 ～各教科の交流場面における、シンキングツールを活用した課題設定を通して～

児童の実態との関わり

- ・全体の前で自分の考えを伝えることができるが、考えを深められる児童は少ない。
- ・総合的な学習の時間や生活科を中心に地域と連携した学習に取り組んできたが、コロナ禍だったこともあり連携ができなくなったり校内での発信のみだったりした。

指導の在り方との関わり

- ・複数での考えを整理したり比較したりすることで考えを深めさせたい。
- ・地域学習を通して、地域の課題を見つけさせることまでは十分ではなかった。
- ・総合的な学習の時間の単元の課題設定や学習課題を選定及び見直す必要がある。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す児童像

自分の思いや考えをもち相手との交流を通して、お互いに理解し合い認め合いながら自分の考えを深めようとする児童。

【低学年】自分の思いや考えをもち、相手に伝え、相手の考えを分かろうとする子。

【中学年】自分の思いや考えを表現し、相手の思いや考えを比べたり取り入れたりしながら考えを上げようとする子。

【高学年】自分の思いや考えを表現し、複数の考えを比較したり関連付けたりしながら考えを深めようとする子。

(2) 共通する手立て

①考えを深める場面

- ・お互いに理解し合えるよう、ねらいを明確にして交流する。
- ・シンキングツールなどを使って考えを視覚化し、整理・比較がしやすくなるようにする。

②地域交流ができる授業の選定及び見直し

- ・ぬまた未来創造学の具現化のために、探求意欲が高まる課題になるよう総合的な学習の時間の単元を選定したり見直したりする。
- ・地域人材や地域学校協働本部を中心とした、地域の人材や教材等を活かした授業作りを行う。

3 研修計画・経過報告

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ①考えを視覚化していったことで、整理・比較しやすくなり児童が考えを深められた。
- ②総合的な学習の時間にぬまた未来創造学を具現化できるよう地域の人材や教材などを活かした単元に選定したり見直したりすることができた。

○課題

- ①児童の実態や話し合うテーマに合わせたシンキングツールを選ぶ。
- ②見直した単元を実践しながら時期やつながりを確認したり見直したりしていく必要がある。

○課題解決に向けての今後の取組

- ①シンキングツールの効果的な使い方を学び、児童が考えを深められるようにしていく。
- ②総合的な学習の時間の単元を実践し、課題がないか確認と見直しをしていく。

3 研修計画・経過報告

指は、指導案検討 授は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点(上段)・明らかになったこと(下段)]
4. 9	研修計画の検討 (研修推進委員会 ¹)	○昨年度の研修内容の共通理解 ○本年度の研修主題、組織 ○「学習のやくそく」、生活記録等の共通理解
4. 22	今年度の研修の方向性の確認 (全体会 ¹)	○研修テーマ、研修の方向性についての確認 ・ B 訪問、校内代表授業者の決定
5. 7	「総合」の年計見直し 非認知能力の育成の 共通理解(全体会 ²)	○「総合」の年間計画の見直し ・「ぬまた未来創造学」「地域連携」を具現化できる単元の選定 ○非認知能力についての共通理解
5. 27	「総合」の年計見直し A 訪問について (全体会 ³)	○「総合」の年間計画の見直し ・「ぬまた未来創造学」「地域連携」を具現化できる単元の選定 ○A 訪問での指導案の共通理解
5. 31	指導主事訪問 A	○管理職による説明 ○指導主事による授業参観
6. 17	A 訪問を終えて 「総合」の単元計画 (全体会 ⁴)	○A 訪問を受けての課題や改善点について ・副主題の決定 ○「総合」の単元計画について ・単元計画表の枠について確認
7. 15	3 年総合 授井田 池田の 教諭 フルーツ 全体会 ⁵	○シンキングツールを活用した課題設定の有効性について ・考えの視覚化をしたことで自ら次の課題を設定できた。 ・児童の実態に合う有効な手段を見つける。
	夏季休業中について 2 学期の研修計画	・「総合」の単元計画作成の振り分け ・ B 訪問に向けての見直し
	夏季休業中	・ B 訪問に向けての指導案作りと教材準備 ・「総合」の単元計画の作成
8. 26	今後の研修について (研修推進委員会 ²)	・「総合」の他校交流の候補について ・池田小学校のスローガンについて(「いけだ力」)
8. 27	N R T 結果考察	○結果考察による児童の実態把握と指導改善方法について
9. 17	5 年総合 授竹内 共に生きる 教諭 全体会 ⁶	○指導案の検討 1 ・本時のねらいと手立て、授業の流れ等を検討した。 ・ I C T のシンキングツールを活用して課題設定をする。
	授 [〃] 全体会 ⁷	○指導案検討を受けての授業 1 ・アドバイザーとしてお年寄りを呼んではどうか。 ・話し合いの形は少人数から全体へ広げる。
10. 7	授 [〃] 全体会 ⁸	○授業 1 を受けて最終討議(授業 2) ・学習の履歴が一目で分かるようにし、導入は短くする。 ・お年寄りの大変だけに目を向けず、「共に生きる」の視点で。
10. 23	6 年総合 授研究所 鎌倉と池田 小田橋 教諭	○シンキングツールを活用した課題設定の有効性について ・ X チャートを用いて考えを分類したことで児童の考えが可視化され、活動の取り組みやすさにつながった。



			・場面に応じたシンキングツールを用いたことで、話し合いの主題が明確になった。	
10.24	研修推進委員会③		・B訪問の日程確認 ・視点の確認	
10.25	5年総合 共に生きる	授指導主 事訪問B	○シンキングツールを活用した課題設定の有効性について ・写真を使って前時までの学習を振り返ることで、児童が本時のめあてをすぐに掴むことができた。 ・メタ認知を意識した振り返りができた。 ・児童の言葉が増えるよう問い返しや考えの比較をさせる。 ・児童が遊びの内容や数、時間配分まで考えることもできた。	
11.11	2年生活 町たんけん	授初任研 狩野 教諭	○シンキングツールを活用した課題設定の有効性について ・自分で考えることが難しかった児童も話し合いで友だちの意見を聞き、決めていくことができた。	
11.11	研究授業の共有	全体会⑨	・研究所と初任研の授業の成果と課題の共有	
冬季休業中		・「総合」の単元計画作成		
1.27	「沼田市の教育」原稿 について	全体会⑩	○「沼田市の教育」執筆原稿の共通理解 ○今年度の成果と課題、指導のあり方と児童の変容のまとめ	
2.3	次年度の研修案	全体会⑪	○C R T検査結果分析による反省と課題設定 ○来年度の研修主題・内容・方法等の検討・「いけだ力」の検討	
3.17	次年度の研修	全体会⑫	○主題、副主題、来年度の方向性について	

※資質向上研修

月日	区分	講師	内容
5.7	熱中症対策	養護教諭	○熱中症対策の研修
5.27	食物アレルギー対策	養護教諭	○食物アレルギー対応やエピペンの使い方について
8.5	非認知能力について	林課長	○非認知能力について（夏季研修会）
随時	研究所の研究	小田橋教諭	○研究所の情報提供
随時	人事評価について	校長	○評価目的の共通理解
随時	服務規律について	校長	○本校の実態を基に服務規律の実例研修

< 職 員 一 覧 >

職 名	氏 名	職 名	氏 名
校 長	井 熊 美 保	教 諭	齋 藤 理 恵
教 頭	青 木 益 巳	教 諭	小 野 修 一
教 諭	星 野 竹 志	養護教諭	角 田 美由紀
教 諭	森 下 好 美	事務主事	山 田 徳 子
教 諭	竹 内 正	非常勤講師	田 村 美 希
教 諭	井 田 さやか	生活相談員	金 子 尚 美
教 諭	小田橋 美 玖	用 務 員	松 井 敦 夫
教 諭	狩 野 里 紗		

薄 根 小 学 校

所在地 〒378-0064 沼田市善桂寺町32番地
 電話番号 0278-22-2891 FAX 22-0785
 校長名 大竹 敏之

I 学校の経営

1 学校の教育目標 【進んで学び、心豊かに、たくましく生きる児童の育成】

- 進んで学ぶ子（自主・創造・根気） ○思いやりのある子（正義感・奉仕・博愛）
- 体をきたえる子（健康・安全・体力）

2 経営方針 全教職員の力を合わせた指導と学校経営参画 <一枚岩・同一歩調>

経営スローガン	【Usuneプライド】「じぶん・ともだち・がっこう・うすね」のいいところ
R6手だての重点 [つなぐ]	「ひと」をつなぐ 「子ども」と「教師」と「保護者・地域」 「学び」をつなぐ 「教科・教材」と「特活」や「総合」や「行事」
【目指す学校像】	【自信と誇りにあふれた学校】 ①子どもが自分に自信をもち、友達・学校・地域を誇りに思う学校 ②教師が、子ども・学校・地域を誇りに思う学校 ③子どもを一番に考える学校 <子ども目線・子どもファースト> ④保護者・地域から応援・自慢される学校

3 本年度の重点施策

- ①「知識・技能」と「自分の考え」を両輪にした確かな学力の向上（学校評価：評価対象Ⅱ「確かな学力」）
 - ・学習内容の徹底した教えと根気強い繰り返し学習による「基礎的な知識・技能」の確実な定着。
 - ・「自分の考えや思い」をわかりやすく伝える活動を日常的に実践し、自分で考える力を育成する。
 - ・教科担任制の活用による、専門性を生かした学習指導の充実と多面的・多角的な生徒指導の充実。
- ②安全の確保と体力・健康の保持増進（学校評価：評価対象Ⅳ「健康・体力」）
 - ・登下校と緊急時の安全を確保し、児童の命を徹底的に守る。（通学路の安全点検・登下校時の行動指導）
 - ・組織的・計画的な体力作りの推進『地域・家庭と連携した体力づくりの推進』
- ③全教育活動における豊かな心の育成（学校評価：評価対象Ⅲ「豊かな心」）
 - ・自分に自信と誇りがもてる指導の推進。【得意・好き・やりたい】
 - ・「考え議論する道徳」の一層の充実。（教材研究の深化・考えを揺さぶる発問の意図的な設定）
 - ・学級活動の計画的実施による、児童が自分の成長を実感でき、支え合い、高め合う集団の実現。
- ④家庭・地域と連携した信頼される学校づくり（学校評価：評価対象Ⅰ「保護者との連携」）
 - ・地域の資源を活用した教育活動や地域行事への積極的な参加による地域を愛し誇りに思う心の育成。
 - ・保護者との積極的・計画的な連携による、互いの顔が見える関わりの実現を通じた信頼関係の構築。
 - ・外部機関（SC・SV・SSW等）との積極的な連携による教育相談の充実。
- ⑤全教職員の経営参画と職能成長
 - ・各主任が核となり業務目的の明確化やコーディネーター意識を発揮し、組織的な分掌運営を充実させる。
 - ・教育公務員としての高い倫理観と日常における服務規律意識の向上。（子どもに背中で語れる教師）
 - ・業務削減と効率化、働き方改革の継続と一層の充実（時間外勤務の削減・退庁時刻管理の徹底）

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主題 体力や健康に関心をもち、進んで運動できる児童の育成

副主題 ～家庭・地域と連携した「からだづくり」の充実を通して～

子どもの実態との関わり

- ・ 体育の授業や休み時間に、意欲的に体を動かしている児童もいるが、運動や外遊びへの興味関心が低く、運動量が少ない児童もいる。
- ・ 幼少期における全身を使ったあそびの経験が少ないため、体の使い方を理解できていない児童が多い。また、体力がない、柔軟性が乏しい、体幹が弱い児童もいる。
- ・ 昨年度「がん教育推進事業」において健康づくりに取り組んだことで、自分の健康や生活習慣に意識を向けられる児童が出てきた。

指導の在り方との関わり

- ・ 学校での取組や、家庭で行っている運動などを紹介し合ったり、地域の人材を活用して、体づくりの運動に取り組んだりするなど、家庭や地域との連携を図る。
- ・ 体の使い方を知り、体の使い方を意識しながら運動できるようにさせる。
- ・ 今年度も健康に関する授業の実践、元気ウィークや朝ごはんチャレンジ等を継続して行い、さらに健康や生活習慣への意識を高める。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す子ども像

《体力づくり》

【低学年】 運動の楽しさを十分に味わう子

【中学年】 運動のよさが分かり、自ら体を動かす子

【高学年】 運動のよさが分かり、学習したことを生かして自ら体を動かす子

《健康教育》

自分の健康や体について

考えたことを生かして

生活できる子

(2) 共通実践する手立て

- ・ 「学習」「日常の取組」「健康」の3つについて、それぞれ発達段階に応じた手立てを考え実践する。
- ・ Home&School等を活用し、学校での取組を家庭に伝えたり、家で取り組んでいる運動を紹介してもらったりするなど、学校と家庭の双方向でのやり取りを通して連携を図る。

3 研修計画・経過報告

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・ ICTの活用、学習カードの工夫、学習や遊びの道具の整備、元気ウィークの項目の見直しを行うなど、発達段階に応じて考えた手立てを実践することができた。
- ・ 体育の授業において、自己の課題を見つけ、課題に合った練習方法を選び、友達と助言をし合いながら課題解決を図ろうとする姿が見られた。

○課題

- ・自ら体を動かそうとする意欲や自分の健康に対する意識をさらに高めていけるよう、児童や家庭に働きかけたり指導を工夫したりしていく必要がある。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・学校の様子や定期的に取り組んでいることを学年・学級だよりやHome&Schoolで家庭に伝える。また、アンケート機能やいいねボタンを使い、保護者の感想や意見を集約できるようにする。

3 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点 (上段)・明らかになったこと (下段)]
4.16	・今年度の研修の方向性の検討 (推進委員会)	○今年度の研修の方向や組織について ・今年度の方向性や組織について確認した。
4.23	・今年度の主題・副主題や研修内容についての検討 ・実践内容や研究授業について (ブロック・部会)	○今年度の基幹となる研修の方向や組織について ・ブロック・部会に分かれ、共通の手立てをもとに実践することを共通理解した。 ○児童の実態や課題、共通の手立て、研究授業の計画について ・児童の実態や課題、共通の手立てになりそうなことを確認した。
5.14	・めざす児童像、共通の手立ての検討 (推進委員会)	○めざす児童像、共通実践する手立てについて ・低・中・高学年のめざす児童像のつながりや、共通実践する手立てが検討された。
5.20	・めざす児童像や手立ての共通理解、指導主事訪問 A に向けて	○めざす児童像、共通実践する手立てについて ・めざす児童像や共通実践する手立てを確認し、授業実践の方向性を明らかにできた。
6.10	・発達段階に応じた手立て、授業実践について	○発達段階に応じた手立てについて ・「学習」「日常の取組」「健康」の3つについて、低・中・高学年それぞれの発達段階に応じた手立てが検討された。
6.11	・指導主事訪問 A	○各教科での実践、指導主事による指導助言
6.24	指 村田教諭	・評価規準、ねらい、本時の展開等について検討された。
7.10	授 3年 村田教諭 「幅跳び」(ブロック代表)	○練習の場を選択したり、タブレット端末を用いて撮影したものをもとに友だちと助言し合ったりすることは、自己の課題を解決することに有効であったか。 ・場の工夫・設定がたくさんあり、自己の課題に合った練習の場を選び、意欲的に練習に取り組むことができた。ポイントを絞ったアドバイスができるような手立てがあるとよかった。
8.30	指 真下教諭 (高学年部会)	・ねらい、本時の展開等について検討された。
9.2	指 佐藤教諭	・単元計画、本時の展開等について検討された。
9.6	授 6年 真下教諭 「走り幅跳び」(学年代表)	○撮影した自分の姿から課題を見つけ、その課題をもとに練習の場を選び、友達とアドバイスし合いながら課題解決する活動は個人の能力の向上に有効であったか。 ・チェックシートを用いることで、アドバイスし合う活動が活発になった。さらにその先の改善策についてのアドバイスになるような手立てを工夫する必要がある。
9.9	授 1年 佐藤教諭 「跳の運動遊び」 (ブロック代表)	○「ほめほめことばのじゅつ」を示したことは、友達のよい動きを見つけたり、考えたことを伝えたりするために有効であったか。 ・「ほめほめことばのじゅつ」の例を参考にしながら、見つけた友達のよい動きをペアで伝えることができた。
9.10	・全国学力・学習状況調査の分析 (全職員・オンライン研修)	○全国学力・学習状況調査を活用した授業改善説明会(オンライン) ○本校児童の傾向、問題分析
9.25	指 稲毛田教諭	・授業の視点、本時の展開等について検討された。
10.3	指 宮沢教諭 (中学年部会)	・ねらい、本時の展開等について検討された。
10.7	・授業公開に向けて	・授業研究会の進め方の確認、環境整備等を行った。

10.10	授4年 宮沢教諭 「幅跳び」(学年代表)	○課題解決に向けて自分のめあてを立てて練習し、友達と助言し合う活動を取り入れたことは、自己の課題解決に有効であるか。 ・数回の練習で児童同士が自然とアドバイスをし合うことができ、アドバイスを生かし取り組む児童が多く見られた。 一方で、アドバイスされるのみで終わってしまう児童もいた。
10.15	・体力向上授業公開 授5年 稲毛田教諭 「走り幅跳び」(ブロック代表)	○課題に応じた練習の場を設定し、友達と助言し合う活動を取り入れたことは、自己や他者の動きの変化に気付く上で有効であるか。 ・「もっと○○したほうがいいよ」といった動きに関する意見をグループの中で共有することができた。動きの変化に気付き助言し合う活動と運動量を確保するバランスが難しいと感じた。
11.25	・研修の成果と課題	○今年度の研修の成果と課題について ・成果と今後の課題について共通理解を図ることができた。
12.10	指大塚教諭(低学年部会)	・ねらい、本時の展開等について検討された。
12.16	・研修のまとめ	○今年度の研修のあしあとを振り返る。 ・今年度の研修を振り返るとともに、来年度の研修について話し合った。
12.17	授1年 大塚教諭 「なわとびと仲良し！ 楽しく跳ねて遊ぼう」 (学年代表)	○児童の伝え合いの活性化を図るために「タブレットの活用」や「連続両足前跳びチェックシート」は有効であったか。 ・タブレットを活用することで、よりよい跳び方にするための改善策が見出しやすくなった。アドバイスは、いかに聞きたいと思う気持ちをもたせるかがポイントである。
2.10	・来年度の研修の方向性の検討(推進委員会)	○来年度の研修の方向性や組織について検討
2.17	・次年度の研修について	○来年度の研修の方向性について確認

※資質向上研修

月日	研修計画 [内容]		実施内容
	区分	講師	
6.18	水難救急法講習会	消防署員	胸骨圧迫の仕方、AEDやエビペンの使い方
6.24	特別支援教育研修①	特別教育支援コーディネーター	脳の認知機能の働き、ADHDの薬の効果
7.24	ICT研修	鈴木教諭	Excelを使った道徳所見の参考例の作り方 等
7.25	教育相談研修	鈴木教諭	教育相談初級レポートの書き方 等
9.2	特別支援教育研修②	特別教育支援コーディネーター	発達障害のある子どもたちの特徴や対応の仕方
9.18	特別支援教育研修③	群馬大学 峯岸教授	特別支援ケース会議 発達障害の特性や児童理解

< 職員一覧 >

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
校長	大竹 敏之	教諭	小熊 瑞江	教諭	武井 紀恵
教頭	井口 智恵子	教諭	森山 有紗	教諭	金子 陽一
教諭	秋元 葉子	教諭	村田 那菜	養護教諭	竹内 孝子
教諭	浅見 敏子	教諭	稲毛田 茉実	総括補佐事務長	戸丸 慶子
教諭	青木 三重子	教諭	真下 慧大	スクールSS	坪山 麻里沙
教諭	高宮 昭子	教諭	小柳 和真	支援員	上野 優子
教諭	宮沢 菜穂子	教諭	諸田 義行	支援員	阿部 美緒子
教諭	七五三木 幸世	教諭	鈴木 雅之	支援員	矢島 貴子
教諭	大塚 あゆみ	教諭	富沢 訓子	生活相談員	五十嵐 千代美
教諭	小野 千恵美	教諭	佐藤 亜里紗	用務員	星野 海斗

川 田 小 学 校

所在地 〒378-0024 沼田市下川田町540番地
電話番号 0278-22-3056 FAX 0278-22-0786
校長名 今井 幸生

I 学校の経営

1 学校の教育目標

- (1) 基本目標・・・健康で豊かな人間性と生きる力をそなえた児童を育成する。
- (2) 具体目標・・・①かしこい子（学ぶ意欲をもち、しっかり勉強する子）
②やさしい子（思いやりがあり、友達と協力できる子）
③たくましい子（明るく、最後まで頑張る子）

2 経営方針

(1) 学校経営目標

◎自己肯定感・自己有用感を高める教育活動を推進・充実させ、子供たちの成長のために教職員が一丸となってよりよい教育活動を行う。

(2) 目指す学校像

- ①児童に身に付けさせたい力を明確にし、授業改善を推進する学校
- ②児童一人一人のよさを認め、温かな人間関係と学校生活に必要な規律を形成する学校
- ③児童の心身の健康を守り、安心・安全な学校生活を保障する学校
- ④よりよい教育に資するために、時間を意識した働き方を実行する学校
- ⑤家庭・地域とともに、温かく児童を育てる学校

3 本年度の重点施策

(1) 学校経営の充実

- ・報告、連絡、相談を徹底し、教職員の縦と横の連携を密にしながら学校組織の対応力強化と、職能成長を図る。
- ・時間を意識した働き方及び服務規律の確保について学校全体で共通の認識をもち、教育活動の質的向上と教職員の健康の保持増進を図る。
- ・コミュニティスクールの機能を生かし、育てたい児童像を保護者や地域と共有しながら特色ある学校づくりを推進し、児童の郷土愛を育む。

(2) 確かな学力の育成 【わくわくスクール沼田】

- ・学習規律を定着させて学びに向かう力を高め、粘り強く学習に取り組む態度と、自己の学習を調整する力を培う。
- ・本時で働かせたい「見方・考え方」を明確にして授業を構想するとともに、問題解決的な学習過程を確実に実施することで、単元(題材)を通して育成する資質・能力を効果的に育む。
- ・指導のねらいを踏まえてICTを活用する場面を吟味し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。
- ・振り返り学習や家庭学習に計画的に取り組ませ、基礎的・基本的な事項を定着させる。

(3) 豊かな心の育成 【児童の命を守り、育てる教育】【家族で本を読みましょ！】【めまた未来創造学】

- ・児童のよさを認め、励ます場面を意図的に設定し、「自己肯定感」「自己有用感」を高める。
- ・教職員が、各々の立場で児童理解を深めるとともに、「自己存在感、共感的な人間関係、自己決定、安全安心な風土」を視点に一貫性のある指導を行い、一人一人の自己指導能力を培う。
- ・挨拶、言葉遣い、きまりの遵守など、他者と協働して集団生活を営む上で必要な規律や考え方、望ましい行動様式について、それぞれの理由を児童と共有しながら定着を図る。
- ・朝読書や読み聞かせ、親子読書を通して様々な本に親しませ、豊かな感性を育成する。
- ・ふるさとの自然、歴史、産業、人情、まちづくりの様子などを、地域にある資源と地域の人にふれながら体験的かつ探究的に学ばせることで、児童の自己有用感を高める。

(4) 健やかな体の育成 【セイフティ沼田】【沼田市SNSルール】

- ・生活リズムチェックカードや川田小SNSルールを活用し、家庭と連携しながら感染症予防に資する免疫力の向上と、メディアに依存しない生活習慣の確立を図る。
- ・教科体育や川小カップにおいて、運動に親しませながら、基本的な動きや技能の向上を図る。
- ・避難訓練の実効性を高め、児童の危機回避能力と、教職員の危機管理体制を向上させる。

(5) 特別支援教育の充実

- ・個別の指導計画に基づき、個々の教育的ニーズに応じた支援について学校全体で共通実践する。
- ・保護者との情報共有や関係機関との連携に努め、一貫した方針で切れ目のない支援を行う。

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主題 主体的・協働的に学ぶ児童の育成

副主題 ～生活科・総合的な学習の時間における、対話と交流の工夫を通して～

児童の実態との関わり

- ・課題を自分事としてとらえる力が十分でなく、追究が深まらないことがある。
- ・協調性をもって他者と一緒に活動する児童が多く見られる一方で、主体的に取り組む児童は限られている。
- ・自分の考えをもつことはできるが、交流場面において、他者の考えからさらに自分の考えを深める力が不十分である。

指導の在り方との関わり

- ・学習対象に興味・関心をもてるような課題設定を工夫する必要がある。【創造】
- ・児童が必然性を感じる場面で、協働的な活動を取り入れるとともに、一人一人が考え、活動できるような形態や内容を工夫する必要がある。【協働】
- ・多様な考えを引き出し、それぞれを比較検討しながら、個の考えと全体の考えを広げたり深めたりする必要がある。【意思疎通】

※【太字】「ぬまた未来創造学」との関わり

2 研修の内容・方法

(1) 具体化した目指す児童像

【低学年】 学習課題をとらえ、自分の考えを伝えたり、友達の考えを分かろうとする子

【中学年】 自ら学習課題を設定し、自分の考えを伝えたり、友達の考えを比べたり取り入れたりしながら考えを広げる子

【高学年】 自ら学習課題を設定し、課題解決への見通しをもち、友達の考えを比較したり関連付けたりしながら考えを深めようとする子

(2) 具体化した目指す児童像を達成するための共通実践する手立て

- ・実生活や地域の中から児童が見いだした疑問や関心に基づいて課題を立てさせることで、探究的に課題を追究できるようにする。
- ・交流活動については、ねらい（どのような資質・能力の向上を図り、何を学ばせるのか）を明確に定め、達成に向けて問い返しの工夫をする。

3 研修計画・経過報告

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・児童の疑問や関心に基づいて課題を立て、振り返りから次時のめあてを立てたことが、児童の意欲や学びの連続性につながっていた。
- ・個人、ペア、グループ、全体など、一人一人が考え活動できる形態や内容を工夫したことが、児童のやる気や深い学びにつながった。

○課題

- ・交流場面で児童の発言をつなぐ適切な言葉がけや切り返しできず、全体で共有できるとよい児童の考えが十分に引き出されていないことがあった。
- ・グループでの話し合いが、単なる発表で終わったり、一人の児童の意見にとどまったりして、考えを深められていない児童がいた。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・交流場面で、適切な言葉がけや切り返しをするために、予想される児童の意識をより具体的にしていける。児童の考えを引き出すために、意見を可視化して、意見を整理したりつなげたりする。
- ・話し合いが単なる発表で終わらないよう、多様な意見が出るような教材を工夫したり、全体発表の場面でも、対話・交流ができるよう問いを設定する。

3 研修計画・経過報告

指は指導案検討 授は研究授業・授業研究会

月日	研修計画 [内容]	研修報告 [○研修の視点・明らかになったこと]
4.22	本年度の研修について	○研修主題及び内容について、昨年度までの取組及び今年度の研修の方向性を確認した。 ○「ぬまた未来創造学」と本校の研修の関連について確認した。
5.20	研修の共通実践手立て及び指導主事訪問 A について	○今年度の具体的な共通実践手立てを共通理解した。 ○ A 訪問に向けて、指導案の書き方や提出日を確認した。
6.10	教育水準向上研究会について	○研究授業に向けて、今後の予定を確認した。
6.24	指導主事訪問 A	○校内研修の方向性について指導を受け、個々の目標を明確にした。
7.17	教育水準向上研究会について 一人一授業の単元について	○研究授業に向けて、今後の予定を確認した。 ○一人一授業を行う単元及び時期について、それぞれの希望を確認した。
8.27	指教育水準向上研究会 指導案検討(1)	○単元の確認、問題解決学習の流れ、対話と交流場面の工夫について確認した。
9.18	全国学テの分析結果の共有 教育水準向上研究会について	○問題を読み、結果と改善策を共有した。 ○研究授業に向けて、今後の予定を確認した。
10.18	指教育水準向上研究会 指導案検討(2)	○どのような思考ツールを活用し、対話と交流場面でどのような問い返しをしたらよいかを再検討した。
10.23	6年 授 社教主事訪問 飯野教諭 総合的な学習の時間 「災害に備えて自分たちができることを考え行動しよう」	○児童の疑問や関心に基づいて課題を立てたことが、主体的な活動につながっていた。交流場面では、発表者に対しての質問を促すだけでなく、付け足しを促す声かけができると、全体での交流がさらに深まった。
10.22 10.24	指教育水準向上研究会 指導案検討(3)	○授業の流れ及び対話と交流場面での思考ツールや問い返しについて確認した。
10.29	5年 授 星野教諭 総合的な学習の時間 「子持山の素晴らしさを伝えよう」	○思考ツールや話し合いの視点を児童が考えて決めたこと、グループ内の対話で話形を活用したことが、活発な意見交流につながっていた。全体での交流場面で、より多くの児童が活躍できるような問いの設定ができるとさらによかった。
11.6 11.11	指教育水準向上研究会 指導案検討(4)	○模擬授業を行い、問い返しの工夫及び板書計画について意見を出し合った。
11.8	2年 授 内田教諭 生活科 「つながる 広がる わたしの生活」 ～町たんけん②グループで出かけよう～	○自分の役割やグループごとの役割が設定され、一人一人が考え活動できる形態が工夫されていた。授業のねらいや話し合いの視点を明確に提示できると、さらに活発な意見交流ができた。
11.14	3年 授 教育水準研究会 林美鈴教諭 社会科 「市のうっぴりかわり」	○問い返しのポイントについて、印をつけさせたことで児童の思考が深まっていた。他者との対話だけでなく、自己内対話の時間を確保したり、児童同士が意見のパスを繋げていく工夫ができるとさらによかった。
	4年 授 教育水準研究会 渡根木教諭 総合的な学習の時間 「障害のある人のことを知って、自分ができることを考えよう」	○児童に単元の目標を意識させることで、より自分ごととして話し合うことができた。それぞれの考えをワークシートにまとめてから思考ツールを使えば、さらに質の高い話し合いになった。
11.29	1年 授 見城教諭 生活科 「自分できるよ」	○めあてや話し合いの視点が明確で、グループ内の交流では、自分の考えをしっかりと発表できている児童が多かった。支援をしすぎず、児童に任せて見守る姿勢が、個々の考える力や学びを振り返る力を伸ばしていた。

12.5	4年 金子教諭	授 体育科 「ゴール型ゲーム」	○一人一人に役割があり、全員が活躍できる形態が工夫されていた。本時のねらい、交流の視点、出された意見を視覚的に捉えられる掲示物があると、より多くの意見を引き出せたり、ねらいの達成度を高めたりすることができた。
12.17	川田っこ 2 高橋教諭	授 自立活動 「友達と協力するよさを知り、ルールを作って遊ぼう」	○児童の実態に合った魅力的な課題が設定されていた。振り返りの場面で、学びが自覚できていない児童や、マイナスな発言をする児童に対して、有効な問い返しができること、振り返りがより意義のあるものになった。
1.15	川田っこ 1 林昭恵教諭	授 自立活動 「ペアで質問し合い、友達や先生のことを紹介しよう」	○一人一人の実態に合わせて個人のためあてを設定したり、授業の流れを可視化したりしたことが、児童の意欲的な取組につながっていた。教師の中で、予想される児童の意識をより具体的にイメージしてためあてが設定できるとさらによかった。
1.16	3年 河合教諭	授 理科 「電気の通り道」	○答えが1つではない問いにより、グループでの交流に意欲的に参加する児童が多かった。全体での交流では、児童の考えを深める問い返しができていたが、教師と児童のやりとりではなく、児童同士の対話・交流にできるとさらによかった。
1.27	研修	まとめ	○今年度の総括と次年度の方向性を確認した。
2.25	CRT 標準学力検査の結果分析		○学習状況と指導の改善点の確認をした。

※資質向上研修、ミニ研修（木曜日の放課後に20分程度、教職員が互いに学び合う場として実施）

区 分	講 師	内 容
ICTの活用	情報主任	デジタル教科書の使用方法について
教科指導	校内研修主任	算数科指導のポイント（教育実習生の授業研究会）
学力検査の分析	学力向上CO	NRT、CRT等の結果と改善策
学習指導	学力向上CO	漢字・計算コンテストに向けての事前指導と事後指導
学習指導	学力向上CO	対話と交流の工夫について
表簿研修	教務主任	通知表の評価、指導要録の評価
生徒指導	生徒指導主任	問題行動への対応、チームでの支援について
プール管理の方法	体育部	プール管理の方法・機械操作等
救命救急講習	養護教諭	心肺蘇生法、AEDの使用法について
安全指導	養護教諭	危機管理マニュアルの確認
服務規律	教頭	服務ガイドラインについて
学習指導	各ブロックの教諭	一人一授業の指導案検討及びプレ授業

<職員一覧>

職 名	氏 名	職 名	氏 名
校 長	今井 幸生	教 諭	内田 貴大
教 頭	川端 郁男	〃	渡根木 星花
教 諭	見城 美津子	〃	金子 祐巳
〃	河合 潔	養護教諭	三木 沙織
〃	高橋 富士夫	事務主任	佐々木 幸子
〃	林 昭恵	学校教育支援員	小野 輝美
〃	飯野 みさほ	小学校生活相談員	星野 律子
〃	林 美鈴	用務員	渡邊 道明
〃	星野 利彰	運転手	本多 昌一

白 沢 小 学 校

所在地 〒378-0121 沼田市白沢町高平94番地1

電話番号 0278-53-2151 FAX 53-3860

校長名 下田 一貴

I 学校の経営

- 1 学校の教育目標
- よく勉強する子
 - 思いやりのある子
 - ねばり強い子

2 経営方針

- (1) **【確かな学力の育成】**「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実と「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進
- (2) **【豊かな人間性の育成】**「4つの視点」を意識した生徒指導、構造的指導に留意した人権教育、育てたい児童像を踏まえた道徳教育の推進
- (3) **【健やかな体の育成】**望ましい生活習慣を身に付け、体力向上に向け進んで運動に親しむ活動の充実、主体的に身を守るための安全に関する指導の推進
- (4) **【教育課程の編成・実施・評価・改善】** 児童・保護者・地域の現状や要望に応える社会に開かれた教育課程の創造
- (5) **【業務改善・組織運営】** 学校運営の効率化とワークライフバランスの推進
- (6) **【学校安全・危機管理】** 安全で安心した教育活動の提供のための学習環境や危機管理体制の整備・充実
- (7) **【家庭や地域社会との連携・協働】** 地域とともにある学校づくりと、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進
- (8) **【特別支援教育の充実】** 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実

3 本年度の重点施策

- (1) 確かな学力の育成 **【「ぬまた未来創造学】【教職員の資質向上】**
 - ・単元・題材のデザインの工夫による、「主体的・対話的で深い学び」の実現
 - ・めあて・見通し・振り返りの充実による、学びに向かう力の育成
 - ・自己決定、対話・交流、試行錯誤の場面を取り入れた授業デザインの推進
 - ・分かりやすい授業と徹底した繰り返し指導による基礎・基本の定着
 - ・日常的なICT活用、教室環境と学びのユニバーサルデザイン化による学習環境の整備充実
- (2) 豊かな人間性の育成 **【沼田市SNSルール】【ぬまた未来創造学】**
 - ・生徒指導上の諸課題の未然防止や早期対応への組織的・継続的な取組と児童理解に基づいた自発的・主体的な成長を支える取組の充実
 - ・教育活動全体における人権が尊重される環境づくりといじめを許さない学校・学級の雰囲気づくり
 - ・カリキュラム・教材・指導の工夫による、道徳的実践力の育成 **【道徳教育の充実】**
 - ・望ましい人間関係力の育成のための、魅力ある学校づくりの工夫と学年・学級経営の充実
 - ・地域の自然や人々との関わりを生かした豊かな感性を育む活動の推進
- (3) 健康・安全の育成 **【命を守り育てる教育】【セイフティ沼田】【幼小中連携】**
 - ・運動の楽しさや喜びを味わわせる体育授業や体力向上活動の工夫
 - ・自己の健康への関心を高め、課題をもって取り組む健康教育の推進
 - ・自他の生命を尊重し、自ら安全な生活を営むことのできる安全教育と安全管理の徹底
 - ・交通安全・不審者対応等、地域や関係機関と連携した取組の推進

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主 題 自ら考え、共に学び合う児童の育成

副主題 ～対話と交流を生み出す単元構想の工夫～

子どもの実態との関わり

- ・算数科を中心にタブレットのカメラとロイロノートを使って、個別最適な学びと協働的な学びの一体化への活用ができるようになってきた。
- ・読む力や聞く力が弱く、学習のルールや進め方が身に付いていない。
- ・新しい内容に対する抵抗感があり、理解しようとするよりも分からないと諦めてしまう傾向がある。
- ・協働的な学びを通して多くの意見に触れ自分の意見と他の意見を比べて議論することで、自分の考えを深めたり新しい考えを構築したりしていこうとする力は、まだ十分ではない。

指導の在り方との関わり

- ・算数科を中心に、既習事項を活用して、自分の考えをもち、主体的に対話と交流ができる課題の設定や授業展開を工夫する。
- ・児童がワクワク感をもって取り組める課題の設定と問題解決的な授業を取り入れた単元計画のデザイン構想を工夫する。
- ・昨年度までの研修を生かし、協働的な学びを通して、多くの意見に触れ、議論することで自分の考えを深めたり新しい考えを構築したりする。
- ・「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善を進め、児童の確かな学力を育成し、全学年で学力の底上げを図る。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す子ども像

【低学年】自分の考えをもち、友達のと比べて同じところや違いに気付くことができる児童

【中学年】自分の考えをもち、友達のと比べて自分の考えとの違いに気付くことができ、自分の言葉で表現できる児童

【高学年】自分の考え（の根拠）をもち、対話と交流を通して自分の考えを広げたり深めたりすることができる児童

(2) 共通実践する手立て

- ・昨年度作成した「単元計画のデザイン構想」を活用し、各教科における見方や考え方を働かせて、児童が単元を通して、ワクワク感をもって取り組める問題解決的な単元計画のデザインを工夫していく。
- ・単元・単位時間ごとの「目指す児童像が達成された姿」を明確にもって、単元計画のデザインを構想する。
- ・はばプラⅡをもとに、単元計画の中に「話し合い活動」「体験的な活動」「振り返り活動」などの「具体的な内容」を位置付け、児童の変容をイメージした授業を実践する。
- ・必要感のある対話と交流を設定し、よりよい考えや汎用性のある考えへと高めていくことで目指す児童像の達成を目指す。

3 研修計画・経過報告

4 これまでの研修の成果と今後の取組

- 成果・問題解決的な単元計画のデザイン構想を工夫したことで、児童はワクワク感をもって問題解決に取り組むことができ、主体的・対話的な学びができてきた。
- 課題・話し合いをよりスムーズに、活発に進めるための手立てや方法を考えていく必要がある（話し合いのルール・話し形・グループの形態・教師の投げ掛けや問い返しなど）。
- 今後の取組・算数科を中心に、「主体的・対話的で深い学び」の更なる充実と実現を目指したい。

3 研修計画・経過報告

指 指導案検討 授 研究授業・授業研究会 成 成果 課 課題

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点 (上段)・明らかになったこと (下段)]
4. 15	今年度の研修について	○研修内容の共通理解 ○テーマ・サブテーマの決定 ○A訪問の指導案作成について
6. 3	校内研修全体計画、学力検査 (NRT) の分析と活用について	○研究授業(代表授業・B訪問)についての共通理解 ○C&S調査の実施・学力検査 (NRT) の分析と活用について
6. 14	指導主事要請訪問A	○研究授業 (B 訪問) について、研究の方向性を確認、共通理解
6. 24	A訪問での指導からC&S調査考察について	○A訪問での指導についての確認 ○C&S調査の考察について
7. 8	授 低学年研究授業 	1年：算数「のこりはいくつ ちがいはいくつ」 青木奈津江教諭 成：授業に体験を取り入れたことにより、児童が楽しんで取り組むことができ、学習内容がよく定着した。この時期の1学年の児童でもグループでの話し合いや助け合いの活動は有効で、正しい考えへと修正されることに役立った。 課：児童の体験の練習時間を確保することで、ゲームのやり方をイメージしたり、結果をタブレット等を用いて写真に記録したりすることで、より話し合いに役立ったのではないかと。
7. 19	学力検査 (NRT) の分析と活用	○学力検査 (NRT) の分析と活用についての共通理解
夏休業中	* 自主研修	○授業実践に向けて教材研究 ○B訪問に向けて、単元・指導案検討
9. 9	指 B 訪問指導案検討	○授業説明
9. 13	授 高学年研究授業 	6年：算数「円の面積」 今井 由香利 教諭 成：ロイロノートを使って、自分の解答を「できた・自信ない・できない」で色分けをしたり、考え方ごとに色分けをしたりしたことで、対話や交流がしやすかった。また、計算式だけを重視せず、図形を使った式を用いることで考え方に集中させることができた。児童は、1時間ごとの学習の積み重ねにより学習内容がよく定着し、本時の課題の追究にワクワク感をもって取り組むことができた。 課：対話や交流の時に、話形にはめず自分の考えを自由に言えることが望ましいが、個別対応として話形が必要な児童は選んで使えるようにすることで、安心して話し合いに参加できるよう配慮する必要がある。
9. 28~	指 B 訪問指導案検討	○B訪問指導案授業説明
10. 25	指 第2次B訪問指導案検討	○B訪問指導案変更部分の検討
10. 25~	B訪問準備	○共通理解、役割分担、模擬授業、準備
11. 18	B訪問に向けて最終確認、学力向上対策フォーラムの報告	○B訪問指導案最終確認、全体会の進め方、役割分担の確認 学力向上対策フォーラムの報告・共通理解
11. 20	授 初任者研修授業研究会 	2年：算数「九九のひょう」 木村 彩奈 教諭 成：自分の考えを幾つも書けるようにワークシートを工夫し、速くできた児童は積極的に他の考え方を書き、達成感に繋がった。ペアで説明し合ったり、ロイロノートで考えを共有したり、全体では、他者説明も取り入れていてより考えが深まった。 課：であう過程の考え方の見通しをもたせる場面で、教師が取り上げたことが児童の考えの基になるため、いろいろな考えを引き出すような例示を示す必要がある。
11. 29	授 指導主事要請訪問B	4年：算数「広さの表し方を考えよう」 富永 隼哉 教諭

		<p>成：「都道府県陣取りゲーム」を軸にした授業で、児童のワクワク感の高揚につながり、自力解決では自分の考えをもてたことで話し合い活動で多様な意見が出され、最後の適用問題までスムーズに進められた。</p> <p>課：話し合い活動では、話しやすいグループの形態を工夫したり、対話や交流を深めるための教師の投げ掛けや問い返しを工夫したりする必要がある。</p>
1. 20	全国学力・学習状況調査の結果と分析について、今年度の研修のまとめ、次年度の研修に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ○全国学力・学習状況調査の結果と分析について確認 ○全職員で共通理解、今後の活用を検討 ○今年度の研修のまとめについて ○次年度の研修について事前アンケートの実施
3. 10	次年度の研修について検討	<ul style="list-style-type: none"> ○次年度の研修主題や研修内容の検討と仮決定 ○C&S調査について ○C R Tの分析

*資質向上研修

月 日	研修計画 [内容]		実 施 内 容
	区 分	講 師	
4. 25~	初任者研修 メンター研修	メンター教員	○生徒指導、生活指導、学習指導等の疑問等への対応法、心構えやポイントの研修
6. 24	生徒指導研修	生徒指導主任	○C&S調査を活用した生徒指導研修 1回目
8. 23	特支研修講演会	講師 白沢中 三俣利明 校長	○「発達障害当事者から学ぶ困りごとへの具体的な工夫」～二次障害を防ぐためにも～
8. 23	I C T機器研修	情報担当 富永隼哉 教諭	○ロイロノートの共有ノートの活用法と有効的な活用について
9. 22~	教科研修	教科担当	○教科の授業研究
12. 23	特支研修講演会	講師 共愛学園前橋国際大学短期大学部 上原篤彦 教授	○「発達障害の理解について」1回目
1. 17	特支研修講演会	講師 共愛学園前橋国際大学短期大学部 上原篤彦 教授	○「発達障害の理解について」2回目
3. 10	生徒指導研修	生徒指導主任	○C & S 調査を活用した生徒指導研修 2回目
夏休み	年間指導計画	各担任	○年間指導計画の見直し

<職員一覧>

職 名	氏 名	職 名	氏 名	職 名	氏 名
校 長	下田 一貴	教 諭	松井 みづ穂	養護教諭	加藤 俊子
教 頭	佐々木 真由美	教 諭	今井 由香利	補佐事務長	原澤 修
教 諭	宮内 国大	教 諭	阿部 大地	非常勤講師	小曾根 理佳子
教 諭	青木 奈津江	教 諭	鈴木 詩生	スクールカウンセラー	廣田 莉奈
教 諭	木村 彩奈	教 諭	石原 偉子	A L T	ドーナ・ランドル
教 諭	土屋 智香	教 諭	高橋 暁美	学校教育支援員	鈴木 ゆかり
教 諭	富永 隼哉	教 諭	角田 明大	生活相談員	河野 君代
		教 諭	吉野 泰広	用務員	村瀬 京一

利根小学校

所在地 〒378-0303 沼田市利根町追貝93番地
電話番号 0278-25-8172 FAX 0278-56-2221
校長名 吉田 広幸

1 学校の経営

1 学校の教育目標

基本目標：確かな学力と、豊かな心を持ち、ねばり強さと郷土を愛する精神に富む、心身ともに健全な児童を育成する。

具体目標：**知** 進んで学習する子 **徳** 思いやりのある子 **体** ねばり強くがんばる子

2 経営方針

スローガン：気づき 考え 実行し 笑顔あふれるチーム利根小

- (1) 基礎的・基本的な知識や技能の習得、活用力（思考・判断・表現）・問題解決力の育成
- (2) 人を思いやる心、自己有用感、道徳的判断力・心情・実践意欲と態度の育成
- (3) 健康・食育の知識や技能の習得と実践力の育成
- (4) 保護者や地域から信頼される学校づくり

3 本年度の重点施策

(1) 基礎的・基本的な知識や技能の習得、活用力（思考・判断・表現）・問題解決力の育成

- ①「課題を自ら見だし考える」場を設定し、自分で学びをつくる楽しさを実感できる授業づくり
- ②ICTを効果的に活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体化の充実
- ③根拠を明確にした話し合いでの考えの深まりや広がりを実感させることで、「ふしぎ・できた・分かった」等の喜びをもたせる授業づくり
- ④学習規律の定着と発達段階や教科の特性を踏まえた学習の仕方を身に付けさせることによる、粘り強く学習に取り組む態度と主体的に学習に取り組む態度の育成
- ⑤隙間時間や学びの時間、漢字・計算トライアルの工夫による、基礎学力の定着
- ⑥家庭学習の手引きの活用や「家読の日」の設定等の家庭との連携による、家庭学習の習慣や読書習慣の確立【家族で本を読みましょう】

(2) 「人を思いやる心、自己有用感、道徳的判断力・心情・実践意欲と態度の育成

- ①一人一人が活躍できる学校行事や学級活動の充実と個のよさを認め励まし、自己有用感を高める学校づくり
- ②人権尊重を核とした、お年寄りや異学年、特別支援学級との交流等による、思いやりにあふれるよりよい人間関係が築ける学級・学年・学校づくり<青少年赤十字実践推進校指定（令和2・3年度）の成果を生かす>
- ③朝読書や読み聞かせ、家読の充実と市立図書館との連携等による、豊かな感性の育成【家族で本を読みましょう】
- ④「考え、議論する」道徳科への授業改善を図った、道徳的判断力・心情・実践意欲の向上
- ⑤児童の多面的な把握と理解を基盤にした、日常及び授業中の指導・支援の充実
- ⑥日常の観察や生活アンケート等を活用した組織的ないじめの未然防止や早期発見、早期対応

(3) 健康・食育の知識や技能の習得と実践力の育成

- ①家庭と連携した「早寝、早起き、朝ごはん」の推進と「利根小よい子の一日」、「利根小 SNS ルール」等を活用した、規則正しく、規律正しい生活習慣の育成【沼田市SNSルール】
- ②体力向上プランや利根小アスリートカップの取組による、運動に親しむ資質の向上と体力の増進・運動能力の育成
- ③健康に関する諸計画等についての共通理解と学校保健委員会の活用等による健康づくりに関する指導の充実
- ④命の大切さを実感する活動を効果的に取り入れたSOSの出し方教育等による、自ら命を守る態度の育成【児童生徒の命を守り、育てる教育】
- ⑤養護教諭や栄養教諭と連携した、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付ける食育や給食指導の充実
- ⑥特別支援教育と生徒指導、教育相談の関連性の重視と職員の共通理解の深化、SCや外部関係機関との連携の推進

(4) 保護者や地域から信頼される学校づくり

- ①学校安全計画や危機管理マニュアルを基にした安全学習や避難訓練の実施による、危険予測・察知・回避能力の育成と対応力・実践力の向上【セイフティ沼田】
- ②コミュニティスクールの仕組みを生かし、地域の教育素材や教育力を最大限に生かし、郷土のよさや夢を語れる学校づくりを目指した、特色ある教育活動の推進【ぬまた未来創造学】
- ③保・小・中の連携による、小1プロブレムや中1ギャップの解消と各教科等の指導における連結【幼小中連携】
- ④職員研修、人事評価システム等を活用した、教職員一人一人の指導力・資質の向上と組織的・協働的な取組の充実
- ⑤児童と向き合う時間増を目指した、校務のスリム化と計画的・組織的な運営に向けての改善

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主 題 主体的に取り組み、学びを深めることのできる児童の育成
副主題 ～一人一台端末を活用した対話的活動の充実を通して～

児童の実態との関わり

- ・グループやペアでの対話がスムーズにできるようになり、話型の活用で児童の説明力が向上してきた。
- ・自力解決での考えをグループや全体場で説明できる児童に偏りが見られる。
- ・考えを交流する際、自分の考えを示したり説明したりはできるが、よさの共有や疑問、説明の補足などの比較・検討の仕方が課題。

指導の在り方との関わり

- ・教師が発問の吟味や問い返しを行うことで、児童の学びを深める授業改善につながった。
- ・対話的活動での教師の支援の仕方や、児童の考えを深めるための比較・検討のさせ方などをさらに研修する必要がある。
- ・必要感のある課題を設定し、一人一台端末を活用した対話を通して児童の学びが深まるよう、学びの自覚を図る必要がある。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す児童像

【低学年】自分の考えを分かりやすく伝え合い、他の考えのよさに気付くことのできる児童。

【中学年】自分の考えを根拠を明確にして伝え合い、他の考えのよさを取り入れて考えを広げることのできる児童。

【高学年】自分の考えを筋道立てて伝え合い、他の考えのよさを取り入れて多面的に考えを広げ深めることのできる児童。

【特別支援】自分の考えをもち、伝え、考えや学びを確かにできる児童。

(2) 具体化した目指す児童像を達成するための共通実践する手立て

- ・一人一台端末の効果的な活用場面を吟味し、それを活用することで児童同士の「考えを交流する対話活動」と「比較検討する対話活動」を工夫する。
- ・学びの自覚につなげるために、「まとめ」・「振り返り（適用問題）」の時間を確保し、見方・考え方につなげたり、日常生活への活用の意欲付けを図ったりする。

3 研修計画・経過報告

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・思考ツールを活用し視点を与えて提示したことは、児童自ら考えを比較したり整理したりして、ねらいに沿った主体的な話し合いにするうえで有効であった。児童の学びの自覚にもつながった。
- ・一人一台端末の活用で、図や教材を拡大したり繰り返し使ったりしながら自分の考えを意欲的に伝えようとする主体的な児童の姿が育っている。

○課題

- ・学びの自覚ができるよう、まとめや適用問題の時間を確保していく。
- ・考えの比較や教え合いなど対話の質が高まるよう、児童に学び合いの意識を高めていく。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・児童が主体的に活動できるような一人一台端末の活用を図り、対話的活動を充実させていく。
- ・児童の考えを深めるために、どの考えを取り上げたり提示したり揺さぶったりしていくか、本時のまとめや児童の学びの自覚につながるような問い返しや視点を明確にした授業づくりに努める。

3 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画〔内容〕	経過報告〔○ 研修の視点 ・明らかになったこと〕
4. 9	・研修計画の検討	○テーマ・サブテーマの決定、「目指す児童像」の検討
4. 15	・研修計画の共通理解	○研修内容についての共通理解と一人1授業の計画
4. 22		○1単位時間の学習過程、校内研修の視点に沿った授業について
5. 13		○A訪問に向けての指導案形式と共通理解
6. 5	・指導主事A訪問	○各教科での実践、指導主事による指導助言
6. 10	・研究推進に向けての	○A訪問の指導を受けての研修の見直し、内容の共通理解
6. 17	共通理解	○NRT学力検査の分析と報告
	・ICT研修	○ICT活用に係る思考ツールの活用等の職員研修
6. 19	授① 柴田教諭 〈特支4年算数〉 「長さと定規」 (高学年部会)	○定規の模型やイラストを基にして教師と一緒に長さの読み方を考えたり表現したりできる。 ・タブレットで目盛りを拡大する、なぞる、繰り返す、既習事項を確認するなど効果的に活用できた。 ・導入で、cmで測れない場合にどうしたらよいか揺さぶる活動を取り入れ、mmの必要性を感じられるようにする。
6. 28	授② 中里教諭 〈4年算数〉 「小数」 (高学年代表授業)	○ロイロノートの思考ツールを用いて、自分の考えを表し、小数をいろいろな見方で表すことができる。 ・思考ツールを用いて整数と小数を比較しながら数の仕組みを考えさせたことで、児童が考えを整理しやすかった。その後の共有ノートでの話し合いでも活発な意見交流につながった。 ・より深めたい視点を全体で考えると、児童の考えが広がった。
7. 8	・研修推進に向けて	○授業実践①・②の授業研究会報告 ○夏期休業中の研修とB訪問に向けての共通理解
8. 24	指① 指導案検討	○B訪問へ向けての共通理解(授業構想、研修主題との関連) ・児童の考えの取り上げ方、適切な適用問題について検討
9. 3	授③ 千明教諭 〈6年算数〉 「円の面積」 (高学年部会)	○児童用デジタル教科書のアニメーションを活用して、円の面積を求める公式を考えることができる。 ・アニメーションを使うことで、円の面積を平行四辺形の面積と見立てて公式を考え、進んで発表できた。 ・平行四辺形とみる考え方だけだったので、机間指導で種を蒔いておくと集団解決で2種類の考えが比較できた。
9. 17	指② 指導案検討	○授業実践③の授業研究会報告 ○全国学力学習状況調査分析結果の共有 ○B訪問へ向けての共通理解(前回からの修正点について)
10. 7	授④ 丸山教諭 〈1年算数〉 「ふえたりへったり」 (低学年部会)	○ロイロノートのカードを用いて3口のたし算ひき算の計算の仕方を説明し、答えの求め方が分かる。 ・「はじめに」「つぎに」「さいごに」の3つのカードを3種類のレベルで説明練習させ、順序を明確にしてブロックと対応させて操作できた。繰り返しペアで確認し合うことができた。 ・別案で、ブロック操作を動画に撮って説明し合う方法もある。
10. 15	指③ 指導案検討	○授業実践④の授業研究会報告 ○展開(手立ての工夫)を中心に全体的に検討(模擬授業) ○B訪問最終確認(授業研究会の進め方と役割分担)
10. 29	授⑤ 小野教諭 〈2年算数〉 「かけ算(1)」 (指導主事訪問B)	○L字型に並んだチョコレートの数を、ロイロノートのシートを活用して図と式を対応させ、既習のかけ算九九を用いて求め方を考える。 ・児童の考えを発表する場面で、図だけ、式だけを見せての他者説明がしっかりでき、児童の考えを適切に提示して効率よく話し合いが進められた。考え方を類型化して児童の考えを生かしてネーミングすることがまとめにつながっていた。 ・図と式を関連させる際、言葉の充実が図れるとよかった。

11. 8	授⑥ 大関教諭 〈特支3年算数〉 「円と球」 (低学年部会)	○ロイロノートで提示した昆虫に合った円形ケースの円を写し取ったり折り目をつけたりして、円の中心と半径の関係がわかる ・円の大きさを変えて繰り返し活動したので、直径・円の中心・半径の理解を少しずつ深めることができた。 ・児童が説明しやすいよう、話型をロイロノートに投影させ、ヒントカードのように活用するとよい。
11. 18	・研修推進に向けて	○B訪問の指導を受けての研修の成果と課題、改善点について ○授業実践⑥の授業研究会報告
11. 19	授⑦ 亀山教諭 〈4年理科〉 「物の体積と温度」 (高学年部会)	○金属を温めたり冷やしたりしたときの体積の変わり方は、空気や水と比べてどうなるかを、予想・実験・考察する。 ・ロイロノートであらかじめ提出した予想を意図的に取り上げて提示したことで、自分の予想と他の予想を比較できた。 ・実験後の考察を班内で子どもたちが意見を交換しながらまとめ、発表し合うとよかった。
11. 20	授⑧ 櫛淵教諭 〈3年音楽〉 「いろいろな音のひびきに親しもう」 (低学年部会)	○感じ取ったことや聴き取ったことを、音楽の要素を根拠にしながらかつ伝え合い、演奏のよさやおもしろさに気付くことができる。 ・ロイロノートに示した音楽の要素を基に、自力解決やグループでの話し合いが児童主体で進められた。音源の活用が有効だった。 ・1つのグループを基にして「はじめ」「中」「終わり」を比較検討しながらの発表も効率よく効果的だった。
11. 21	授⑨ 渡辺教諭 〈5年算数〉 「正多角形と円」 (高学年部会)	○正多角形の意味を基に、プログラムを使ってより簡単に正多角形をかく方法を考えることができる。 ・プログラミングを使用することで、簡単に図形を作ることができることを体験できた。 ・できたプログラムについて図を用いて説明し、できないプログラムはできない理由を話し合う活動を取り入れる。
12. 9	・研修の成果とまとめ	○授業実践⑦・⑧・⑨の授業研究会報告 ○研修のまとめについて
1. 20		○R6年度研修の成果と課題、改善点について(アンケートより)
2. 10	・次年度に向けた検討	○次年度に向けての方向性の検討
3. 3	・学力検査結果考察	○C R T学力検査の分析と報告

<職員一覧>

職 名	氏 名	職 名	氏 名
校 長	吉田 広幸	教 諭	柴田 聖愛
教 頭	鈴木 昭代	〃	亀山 秀治
教 諭	千明 浩己	〃	野上 和栄
〃	丸山 みのり	養護教諭	安澤 舞彩
〃	大関 久美子	栄養教諭	遠藤 まみ
〃	中里 美穂	主幹事務長	星野 一枝
〃	櫛淵 帆南	非常勤講師	星野 裕平
〃	渡辺 訓史	学校教育支援員	須田 悠介
〃	小野 詩織	用務員	長谷川 晃

多 那 小 学 校

所在地 〒378-0317 沼田市利根町多那732番地
電話番号 0278-53-2919 FAX 53-3199
校長名 宮田 好子

I 学校の経営

1 学校教育目標

【基本目標】◎多那を愛し、未来をきりひらく子

【具体目標】○よく学ぶ子（知） ○思いやりのある子（徳） ○たくましい子（体）

2 経営方針

- (1) **経営目標** 全職員が使命感をもち、小・中学校の枠を越え、感謝と奉仕の心を大切にしながら協働し合える教職員集団（チーム多那）
- (2) **目指す学校像** ともに学び、考え、助け合い、高め合う多那校（チーム多那）
- (3) **目指す教師像** 小・中学校の枠を超え、感謝、使命感と奉仕の心をもち、互いに支え、高め認め合える人間性豊かな教師

3 本年度の重点施策

(1) 確かな学力の育成

- ①「分かる」授業の実践（90%以上）
- ②授業改善（見方、考え方を働かせる、課題（問題）解決型学習過程・探究的過程）
- ③めあて・見通し・振り返り（成長の自覚）
- ④粘り強さ・主体性の育成
- ⑤効果的なICTの活用（思考・表現）
- ⑥特別支援教育の充実（一人一人の実態やニーズ・困り感に寄り添った指導・支援、職員研修）
- ⑦小中相互乗り入れ型教科指導

(2) 豊かな人間性の育成

- ①生徒指導上の4つの視点を基盤にした生徒指導の推進
- ②道徳教育、人権教育の推進【**児童生徒の命を守り、育てる教育**】
- ③「ぬまた未来創造学」の推進
- ④凡事徹底、師弟同行、率先垂範による生活指導
- ⑤家庭と連携した読書活動の推進（親子読書の充実）【**家族で本を読みましよう**】
- ⑥地域の教育力の活用（CSの充実）

(3) 健康の増進と体力の向上

- ①学校保健・食育の推進
- ②運動好きな児童の育成
- ③望ましい生活習慣の定着

(4) 組織マネジメントの充実

- ①実態を踏まえた特色ある教育課程の編成・実施・評価
- ②PDCAサイクルによる教育活動の充実
- ③小中連携一貫教育の促進と充実

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～ 研 修 主 題 ～

主題 「主体的・探究的に学び、考え判断したことを表現できる児童生徒の育成」
副主題 ～生活科・総合的な学習の時間を中心とした、探究的な学習の実践を通して～

児童生徒の実態との関わり

- ・小規模校のため、少人数の対話や教師と児童生徒との対話を中心となり、多様な視点から物事を考えることが少ない。
- ・協働的な学びの場面で、考えの根拠を説明したり、相手に分かるように質問に答えたりすることに課題がみられるので、身に付けた知識や技能を活用し、相手意識をもって自分の考えを伝え、課題を解決できるようにする。

指導の在り方との関わり

- ・課題解決に向かえるよう、児童生徒との対話だけでなく、地域の方や先哲の考えを手がかりに物事を考え、主体的・探究的な学びを充実させる。
- ・他教科と関連させたり、児童生徒に必要な感のある課題を設定したりすることで、自律した学習を促すようにする。また、協働して課題を解決しようとする学習活動や表現活動を促すようにする。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す児童生徒像

- 【生活科】身近な生活から気づいたことを、自分の思いや考えをもとに表現することができる児童
- 【中学年】地域社会との関わりから課題を設定し、体験活動などから学んだことを生かし、表現することができる児童
- 【高学年】地域社会との関わりから課題を設定し、体験活動などから学んだことを生かし、相手意識をもってまとめ表現することができる児童
- 【中学生】人、環境、社会などの関わりの中で、主体的に課題を見つけ、情報を収集しながら課題解決に向けて自分の考えや意見をまとめ表現し合い、深め合うことができる生徒

(2) 共通実践する手立て

- ・探究のプロセス（課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ）を基本とした単元構想を工夫する。
- ・社会で働く資質・能力を育成するために、課題解決に必要な知識及び技能を身につけさせる。
- ・教科横断的な内容となっているか、探究的な学習過程となっているか、小中の学びの連続性はあるか等の視点から全体計画や単元計画を見直す。

3 研修計画・経過報告 裏面

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・探究のプロセスを共通理解し、単元構想を考えて計画を立てたことにより、児童生徒が単元全体の見通しをもち、学習することができた。
- ・体験活動や交流活動を計画的に学習活動に取り入れたことは、課題設定や課題解決の場面において、子どもの思考を深める手だてとなり効果的であった。

○課題

- ・多様な考えを持たせるために、教師がどのように働きかけをしていくかを検討する必要がある。
- ・主体的に取り組むための必要感のある課題をどのように設定していったらよいかをさらに考える必要がある。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・地域の特性を生かした「総合的な学習の時間」について、地域の思いや願いを児童生徒が共有し、自ら解決したくなるような学習課題・学習活動にはどんな題材があるか考える。
- ・児童生徒の個人テーマに関するまとめや提案を発信する方法や手段を検討していく。

3 研修計画・経過報告 (全: 全体会 班: 班別協議 校: 校種別部会 指: 指導案検討)

月 日	研修の内容	(○研修の視点 ・ 明らかになったこと)
4/15 (月)	全① ・ 研修内容について ・ 指導上の工夫について	○本年度の研修主題、副主題について ・ 総合的な学習についての見通しがもてた。
4/30 (火)	全② ・ むまた未来創造学について ・ 探究的な学習について 講師：学校教育課 林武史課長 星野優太指導主事	○総合的な学習の時間についての基本的な理解 ・ 課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現→振り返り・改善について共通理解した。 ・ 魅力的な課題を設定する。 ・ 地域と協働して生き方を考える。
5/29 (水)	多那小中指導主事訪問 A	○一人1授業
6/3 (月)	全③ ・ 指導主事訪問での学び	○授業実践後の情報共有
7/1 (月)	全④ ・ 全体計画、年計の見直し 校① ・ 全体計画の形式等	○単元の構想、課題解決の方法 ○探究のプロセス・全体計画の見直し
8/27 (火)	全⑤ ・ 授業実践計画 ・ 小1生活科 班① ・ 指 金井みち代教諭	○単元の構想、課題解決の方法 ○探究のプロセス ・ 探究の目的を持つことが大切である。
9/5 (木)	班② ・ 小1生活科 ・ 授業研究会 ○探究課題 「あさがおの一生をかんさつしよう」	○単元構想について ・ 単元全体を通して、個人のめあて（課題設定）があつてよかった。 ・ 児童の気づきや思いをみんなで共有するための時間をもっとじっくりとるとよかった。
9/30 (月)	全⑥ ・ 指 千明春香教諭 ・ B訪問指導案検討 ・ 中2総合 ・ 個人課題の持たせ方	○B訪問の授業について ○探究課題「多那を創る」 ・ 課題設定の場面での工夫について、事前の準備や計画がとても効果的であった。
	班③ ・ 中3総合 ・ 指 高山誠教諭 萩原圭教諭 高橋千賀子教諭	○探究課題「未来を創る」 ・ 情報の整理分析について視点が明確であった。
10/2 (水)	班④ ・ 中3総合 「私たちが提案する多那の未来」 ・ 授業研究会 ○探究課題 生かそう「多那の魅力」 きりひらこう「多那の未来」	○課題設定について ・ 指導者の問いかけの工夫、学習者の意見共有する場の設定が適切であった。 ○情報の整理・分析について ・ 情報収集の視点をはっきりしていたので、生徒たちが主体的に取り組めた。
10/9 (水)	班⑤ ・ 小5総合 指 渡貫文子教諭	○意見交流について ・ アドバイスを共有する場面を設定するとよい。
10/11 (金)	班⑥ ・ 小5総合・ 授業研究会 「お米博士になろう」 ○探究課題「お米の大切さ」	○課題設定について ・ 体験活動をもとに課題を設定したが、探究的な活動に結びつけるのが難しい。

10/15(火)	全⑦指導主事訪問Bに向けて	○指導案検討
10/22(火)	指導主事訪問B 全⑧・中2総合 千明春香教諭 大岩哲夫教諭 「農業で多那を活性化しよう」 ～中学2年生 僕たちの農業奮闘記～ ○探究課題 「多那を創る」	○課題設定について ・魅力のある課題を設定することが大切である。 ・単元構想がしっかりしていて、自然な流れで授業が進められた。 ○意見交流について ・生徒同士が話し合う時間を取り、話し合いの中で自分が追求したいことを考えられるとよい。
11/5(火)	班⑦・授業実践・授業研究会 ・小6総合 井上駿教諭 「知って、考えよう！多那のこと」 ○探究課題 「多那の過去・現在・未来と自分たちの生活」	○課題設定について ・事前に地域ボランティアの方から話を聞いておいたので課題設定に生かされたのがよかった。 ○意見交流について ・意見交流をしながらシンキングツールの整理ができた。
11/28(月)	班⑧・授業実践 ・中1総合 下田隆広教諭 山田哲也教諭 「福祉の視点から見る多那」 ○探究課題 「多那を知る」	○課題設定について ・総合のテーマ(課題)は、生徒にとって必要感のあるものがよい。中学生は、全校で取り組める課題など見直していくのもよいのでは。 ○意見交流について
12/4(月)	班⑨・授業研究会	・話し合いのスキルを高められるとよい。
12/11(水)	班⑨・授業実践・授業研究会 ・小3.4総合 星野智子教諭 小林昌行教諭 「りんご博士になろう」 ○探究課題 「地域の産業」	○単元の構想、課題解決の方法 ・新たな課題やりんご農家の方への質問が課題解決に役立った。
1/20(月)	全⑨・実践の振り返りとまとめ	○主体的・探究的な学びの具体的な姿の達成度 ・目指す児童・生徒像に近づいた。
2/17(月)	全⑩・次年度構想の検討	○次年度の研究内容について ・成果と課題を基に、次年度の構想を検討する。

< 職員一覧 >

職名	氏名	職名	氏名
校長	宮田 好子	教諭	井上 駿
教頭	星野 純一	教諭	金井みち代
教諭	星野 智子	養護教諭	柳澤 知里
教諭	渡貫 文子	〃	(松原 恵)
教諭	小林 昌行	非常勤講師	松井 和則
教諭	大河原真奈美	〃	小林 知美
	(長期研修員)	主任用務員	金子 陽子